

公共健康医学専攻(SPH)シラバス

2025年度

東京大学大学院医学系研究科

目次

事 項		ページ
1. 授業科目の履修について		1
	1.修了要件	1
	2.履修手続き	1
2. 授業科目一覧		2～3
3. 時間割		4
4. 履修モデル		5～8
	「公衆衛生行政・管理」	5
	「保健アナリスト・コーディネーター」	6
	「臨床疫学・アウトカム評価」	7
	「医療情報・臨床工学」	8
5. シラバス		9～48
6. 公共政策大学院との合併科目について		49～51
7. 国際保健学専攻との合併科目について		52～56
8. 公共健康医学専攻成績評価規則		57

日 程	
S P Hガイダンス	4月 1日 (火)
入進学者ガイダンス	2025年度 不開催
大学院入学式	4月11日 (金)
S 1ターム	4月 4日 (金) ～ 6月 3日 (火)
定期健康診断	4月中旬～6月中旬
S 2ターム	6月 4日 (水) ～ 7月29日 (火)
S P H研究室配属 (予定)	オリエンテーション：6月中旬～下旬
	希望調書提出 : 7月上旬～中旬
夏季休業期間	8月 1日 (木) ～ 9月30日 (月)
A 1ターム	10月 2日 (木) ～11月27日 (木)
A 2ターム	11月28日 (金) ～ 1月30日 (金)
Wターム	2月 1日 (月) ～ 3月 6日 (金)
S P H課題研究論文	題目届提出期限： 11月13日 (木)
	論文提出期限： 12月12日 (金)
	発 表 会： 1月9日 (金)
学位記授与式	未定

時 限	1 時 限 8 : 3 0 ～ 1 0 : 1 5
	2 時 限 1 0 : 2 5 ～ 1 2 : 1 0
	3 時 限 1 3 : 0 0 ～ 1 4 : 4 5
	4 時 限 1 4 : 5 5 ～ 1 6 : 4 0
	5 時 限 1 6 : 5 0 ～ 1 8 : 3 5
	6 時 限 1 8 : 4 5 ～ 2 0 : 3 0

1. 授業科目の履修について

1. 修了要件

コ ー ス		1 年コース	2 年コース
標準修業年限		1 年	2 年
必要単位数		必修科目及び選択科目合わせて30単位以上	
修了要件	必修	①A：1科目＋B：5科目の計6科目を履修 A：必須科目	
		科目番号	科目名
		41418113	医学データの統計解析
		単位	
		2	
		B：下記の5つに分類されている必修科目を、各分類から1科目 ずつ計5科目(各分類1科目以上、計5科目以上履修も可)	
		分類	科目番号
		科目名	単位
		1	41518111
		疫学研究と実践	2
		41518115	医学研究のデザイン
		2	41518211
		精神保健学Ⅰ	2
		41518213	健康教育学
		3	41518218
		医療倫理学Ⅰ	2
		41518220	社会と健康Ⅰ
		41518316	法医学・医事法学
		4	41518311
		健康医療政策学	2
		41518312	医療情報システム学
		5	41518222
		産業保健の理論と実践	2
		41518322	環境健康医学
		② 課題研究（6単位） （2年次に履修申請すること）	
		①選択科目（1年コースの課題研究は選択科目扱い）	
		②他専攻・他研究科（特に公共政策大学院）科目（8単位まで）	

注意事項：同一年度中に50単位を超えて履修科目を登録することはできません。

※ 通年科目はS1タームの単位として算入されます。（ただし、課題研究論文については1年コース所属学生の場合のみ、A1タームの履修単位として算入されます。）

2. 履修手続き

下記期間内に、学務システム（通称：UTAS）で履修登録を行ってください。

<参 照> <https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/campusportal.do>

	S1/通年/集中	S2	A1	A2	W
履修登録期間	4/4～4/18		10/2～10/15		
履修登録修正期間	5/29～6/10（通年を除く）		11/20～12/4		2/2～2/6※

※履修登録追加期間

2025年度公共健康医学専攻開講科目一覧

頁	科目番号	授 業 科 目	単位	ターム	曜日	時限等	担当教員	
9	41518111	疫学研究と実践 Epidemiological Research and Practice	2	S1・S2	金 Fri	2	村上 健太郎 MURAKAMI Kentaro	教授 Prof.
10	41518112	予防保健の実践と評価 Practice and Assessment in Public Health	2	夏季 Summer	集中 Intensive	2～4	村上 健太郎 MURAKAMI Kentaro	教授 Prof.
11	41518113	医学データの統計解析 Statistics Analysis of Medical Data	2	S1	木 Thu	3・4	松山 裕 MATSUYAMA Yutaka	教授 Prof.
12	41518114	医学統計学演習 Practicum in Medical Statistics	2	S2	木 Thu	3・4	大庭 幸治 OBA Koji	教授 Prof.
13	41518115	医学研究のデザイン Design of Medical Research	2	S2	火 Tue	3・4	松山 裕 MATSUYAMA Yutaka	教授 Prof.
14	41518116	臨床疫学 Clinical Epidemiology	2	S2	水 Wed	1・2	康永 秀生 YASUNAGA Hideo	教授 Prof.
15	41518117	臨床疫学・経済学演習 Clinical Epidemiology Exercise	2	A1・A2	木 Thu	3・4	康永 秀生 YASUNAGA Hideo	教授 Prof.
16	41518118	保健医療経済学 Health Economics	2	S1	水 Wed	1・2	康永 秀生 YASUNAGA Hideo	教授 Prof.
17-18	41518120	医療コミュニケーション学 Health Communication	2	S1	火 Tue	3・4	木内 貴弘 KIUCHI Takahiro	教授 Prof.
19-20	41518122	医療コミュニケーション学演習 Health Communication Practice	2	S2	水 Wed	3・4	木内 貴弘 KIUCHI Takahiro	教授 Prof.
21	41518124	医療技術評価学演習 Seminar in Healthcare Technology Assessment	1	A2	木 Thu	2	康永 秀生 YASUNAGA Hideo	教授 Prof.
22	41518126	臨床医学概論 Overview on Clinical Medicine	1	S1	木 Thu	2	康永 秀生 YASUNAGA Hideo	教授 Prof.
23	41518127	医学研究データマネジメントとCDISC標準 Medical research data management and CDISC standards	1	A1	火 Tue	3	木内 貴弘 KIUCHI Takahiro	教授 Prof.
24	41518128	がん疫学 Cancer Epidemiology	1	A1	水 Wed	3	井上 真奈美 INOUE Manami	連携教授 Partner Prof.
25-26	41518130	医療系学部出身者のための人文社会科学入門 Introduction of Humanities and Social Science for Medical University Graduates	1	A1	火 Tue	4	木内 貴弘 KIUCHI Takahiro	教授 Prof.
27	41518211	精神保健学Ⅰ Mental Health I	2	S1・S2	火 Tue	5	西 大輔 NISHI Daisuke	教授 Prof.
28	41518212	精神保健学Ⅱ Mental Health II	2	A1・A2	火 Tue	5	西 大輔 NISHI Daisuke	教授 Prof.
29	41518213	健康教育学 Health Education	2	A2	金 Fri	1・2	橋本 英樹 HASHIMOTO Hideki	教授 Prof.
30	41518214	健康社会学 Health Sociology	2	A1	金 Fri	1・2	橋本 英樹 HASHIMOTO Hideki	教授 Prof.
31	41518218	医療倫理学Ⅰ Biomedical Ethics I	2	S1	木 Thu	5・6	中澤 栄輔 NAKAZAWA Eisuke	教授 Prof.
32	41518219	医療倫理学Ⅱ Biomedical Ethics II	2	S2	木 Thu	5・6	中澤 栄輔 NAKAZAWA Eisuke	教授 Prof.
33	41518220	社会と健康Ⅰ Society and Health I	2	A1	木 Thu	1・2	橋本 英樹 HASHIMOTO Hideki 鎌田 真光 KAMADA Masamitsu	教授 Prof. 准教授 Assoc. prof
34	41518221	社会と健康Ⅱ Society and Health II	2	A2	金 Fri	3・4	橋本 英樹 HASHIMOTO Hideki 鎌田 真光 KAMADA Masamitsu	教授 Prof. 准教授 Assoc. prof
35	41518222	産業保健の理論と実践 Occupational Health: Theory and Practice	2	A1	水 Wed	1・2	黒田 玲子 KURODA Reiko 専攻長 Head of Department	准教授 Assoc. prof

頁	科目番号	授 業 科 目	単 位	ターム	曜日	時限等	担当教員	
36	41518223	保健医療人材育成学 Human Resource Development for Health	2	S1	火 Tue	1・2	大西 弘高 ONISHI Hirotaka	講師 Lecturer
37	41518224	プライマリヘルスケア学 Primary Health Care	2	A1	火 Tue	1・2	大西 弘高 ONISHI Hirotaka	講師 Lecturer
38	41518311	健康医療政策学 Health Policy	2	S1・S2	月 Mon	2	東 尚弘 HIGASHI Takahiro	教授 Prof.
39	41518316	法医学・医事法学 Forensic Medicine and Medical Law	2	S1・S2	月 Mon	3	榎野 陽介 MAKINO Yosuke	教授 Prof.
40	41518320	健康危機管理学 Public Health Preparedness	1	A2	火 Tue	3・4	東 尚弘 HIGASHI Takahiro	教授 Prof.
41	41518321	保健行政・健康危機管理学実習 Health Administration & Public Health Preparedness Exercise	2	夏季 Summer	集中 Inten sive		東 尚弘 HIGASHI Takahiro	教授 Prof.
42	41518322	Environmental Health 環境健康医学	2	A1・2	月 Mon	2	Yoonhee Kim	准教授 Assoc. prof
43-44	41518330	Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研究方法論	2	A1・2	月 Mon	3	Yoonhee Kim	准教授 Assoc. prof
45-56	41518411	インターンシップ Internship	2	夏季・A1・W			専攻長 Head of Department	
47	41518511	公共健康医学特論 Special Lecture in Public Health	2	S1	月 Mon	4・5	専攻長 Head of Department	
48	41518611	課題研究 Independent Study	6	通年 Full-Year			各指導教員 Supervisor	
49-51	41518326	社会保障政策(政策の理論と展開) Social Security Policy	2	A1・A2	金 Fri	5	鈴木 俊彦 SUZUKI Toshihiko	客員教授 Visiting Prof.

*以下の講義は休講とする

Following courses aren't offered in AY 2025.

- ・「医療情報システム学 Healthcare Informatics」
- ・「医療情報システム学演習 Practice in Healthcare Informatics」
- ・「公共健康情報学 Public Health Informatics」
- ・「公共健康情報学演習 Seminar in Public Health Informatics」
- ・「日本の医療と地域保健 Health Care and Community Health in Japan」
- ・「Comparative Healthcare Systems in Asia アジア諸国における比較医療制度論」
- ・「医療経営学演習 Seminar in Healthcare Organization Management」

*「社会保障政策（政策の理論と展開）」：公共政策学教育部との合併科目

SPH2025年度時間割

()単位数

			S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/5～5/31		6/3～7/29		8/1～9/30	10/02～11/27	11/28～1/31	2/3～3/7		
		8W		8W		9W	8W	8W	4W		
月	1	8:30 10:15								1	月
	2	10:25 12:10	41518311-健康医療政策学(2)*4				41518322-Environmental Health 環境健康医学(2)*5			2	
	3	13:00 14:45	41518316-法医学・医事法学(2)*3				41518330-Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研究方法論(2)			3	
	4	14:55 16:40	41518511-公共健康医学特論(2)					4			
	5	16:50 18:35						5			
	6	18:45 20:30						6			
火	1	8:30 10:15	41518223-保健医療人材育成学(2)		下記特記事項参照	41518224-プライマリヘルスケア学(2)		1	火		
	2	10:25 12:10				41518127-医学研究データマネジメントとCDISC標準(1)		41518320-健康危機管理学(1)		2	
	3	13:00 14:45	41518120-医療コミュニケーション学(2)	41518115-医学研究のデザイン(2)*1		41518130-医療系学部出身者のための人文社会科学入門(1)		3			
	4	14:55 16:40	41518211-精神保健学Ⅰ(2)*2			41518212-精神保健学Ⅱ(2)		4			
	5	16:50 18:35						5			
	6	18:45 20:30						6			
水	1	8:30 10:15	41518118-保健医療経済学(2)			41518222-産業保健の理論と実践(2)*5		1	水		
	2	10:25 12:10				41518128-がん疫学(1)		2			
	3	13:00 14:45						3			
	4	14:55 16:40						4			
	5	16:50 18:35						5			
	6	18:45 20:30						6			
木	1	8:30 10:15				41518220-社会と健康Ⅰ(2)*3	41518124-医療技術評価学演習(1)	1	木		
	2	10:25 12:10	41518126-臨床医学概論(1)					2			
	3	13:00 14:45	41518113-医学データの統計解析(2)**			41518117-臨床疫学・経済学演習(2)		3			
	4	14:55 16:40						4			
	5	16:50 18:35	41518218-医療倫理学Ⅰ(2)*3			41518219-医療倫理学Ⅱ(2)		5			
	6	18:45 20:30						6			
金	1	8:30 10:15				41518214-健康社会学(2)	41518213-健康教育学(2)*2	1	金		
	2	10:25 12:10	41518111-疫学研究と実践(2)*1					2			
	3	13:00 14:45					41518221-社会と健康Ⅱ(2)	3			
	4	14:55 16:40						4			
	5	16:50 18:35				41518326-社会保障政策(2)		5			
	6	18:45 20:30						6			

業夏 期季 間休	8月	2週目 (予定)	41518112-予防保健の実践と評価(2)
	9月	2～3週目 (予定)	41518321-保健行政・健康危機管理学実習(2)

** 必修科目

*1～5 選択必修科目

休 講 科 目	医療情報システム学(2)、医療情報システム学演習(1)、公共健康情報学(2)、公共健康情報学演習(2)、日本の医療と地域保健(2)、Comparative Healthcare Systems in Asia アジア諸国における比較医療制度論(2)、医療経営学演習(2)
------------------	---

4. 履修モデル

履修モデル「公衆衛生行政・管理」

() 単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W		
曜日	時限	4/5～5/31	6/3～7/29	8/1～9/30	10/02～11/27	11/28～1/31	2/3～3/7		
		8W	8W	9W	8W	8W	4W		
月	1 8:30 10:15							1	月
	2 10:25 12:10	41518311-健康医療政策学(2)*4			41518322-Environmental Health 環境健康医学(2)*5			2	
	3 13:00 14:45	41518316-法医学・医事法学(2)*3			41518330-Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研究方法論(2)			3	
	4 14:55 16:40	41518511-公共健康医学特論(2)						4	
	5 16:50 18:35							5	
	6 18:45 20:30							6	
火	1 8:30 10:15	41518223-保健医療人材育成学(2)			41518224-プライマリヘルスケア学(2)			1	火
	2 10:25 12:10							2	
	3 13:00 14:45	41518120-医療コミュニケーション学(2)	41518115-医学研究のデザイン(2)*1		41518127-医学研究データマネジメントとCDISC標準(1)	41518320-健康危機管理学(1)		3	
	4 14:55 16:40				41518130-医療系学部出身者のための人文社会科学入門(1)			4	
	5 16:50 18:35	41518211-精神保健学Ⅰ(2)*2			41518212-精神保健学Ⅱ(2)			5	
	6 18:45 20:30							6	
水	1 8:30 10:15	41518118-保健医療経済学(2)	41518116-臨床疫学(2)	下記特記事項参照	41518222-産業保健の理論と実践(2)*5			1	水
	2 10:25 12:10							2	
	3 13:00 14:45		41518122-医療コミュニケーション学演習(2)		41518128-がん疫学(1)			3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35							5	
	6 18:45 20:30							6	
木	1 8:30 10:15				41518220-社会と健康Ⅰ(2)*3	41518124-医療技術評価学演習(1)		1	木
	2 10:25 12:10	41518126-臨床医学概論(1)						2	
	3 13:00 14:45	41518113-医学データの統計解析(2)**	41518114-医学統計学演習(2)		41518117-臨床疫学・経済学演習(2)			3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35	41518218-医療倫理学Ⅰ(2)*3	41518219-医療倫理学Ⅱ(2)					5	
	6 18:45 20:30							6	
金	1 8:30 10:15				41518214-健康社会学(2)	41518213-健康教育学(2)*2		1	金
	2 10:25 12:10	41518111-疫学研究と実践(2)*1						2	
	3 13:00 14:45					41518221-社会と健康Ⅱ(2)		3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35				41518326-社会保障政策(2)			5	
	6 18:45 20:30							6	

業夏	8月	2週目 (予定)	41518112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	2～3週目 (予定)	41518321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休			

** 必修科目

*1～5 選択必修科目

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W		
曜日	時限	4/5～5/31	6/3～7/29	8/1～9/30	10/02～11/27	11/28～1/31	2/3～3/7		
		8W	8W	9W	8W	8W	4W		
月	1 8:30 10:15			下記特記 事項参照				1	月
	2 10:25 12:10	41518311-健康医療政策学(2)*4			41518322-Environmental Health 環境健康医学(2)*5			2	
	3 13:00 14:45	41518316-法医学・医事法学(2)*3			41518330-Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研究方法論(2)			3	
	4 14:55 16:40	41518511-公共健康医学特論(2)						4	
	5 16:50 18:35							5	
	6 18:45 20:30							6	
火	1 8:30 10:15	41518223-保健医療人材育成学(2)			41518224-プライマリヘルスケア学(2)			1	火
	2 10:25 12:10							2	
	3 13:00 14:45	41518120-医療コミュニケーション学(2)	41518115-医学研究のデザイン(2)*1		41518127-医学研究データマネジメントとCDISC標準(1)	41518320-健康危機管理学(1)		3	
	4 14:55 16:40				41518130-医療系学部出身者のための人文社会科学入門(1)			4	
	5 16:50 18:35	41518211-精神保健学Ⅰ(2)*2			41518212-精神保健学Ⅱ(2)			5	
	6 18:45 20:30							6	
水	1 8:30 10:15	41518118-保健医療経済学(2)	41518116-臨床疫学(2)		41518222-産業保健の理論と実践(2)*5			1	水
	2 10:25 12:10							2	
	3 13:00 14:45		41518122-医療コミュニケーション学演習(2)		41518128-がん疫学(1)			3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35							5	
	6 18:45 20:30							6	
木	1 8:30 10:15				41518220-社会と健康Ⅰ(2)*3	41518124-医療技術評価学演習(1)		1	木
	2 10:25 12:10	41518126-臨床医学概論(1)						2	
	3 13:00 14:45	41518113-医学データの統計解析(2)**	41518114-医学統計学演習(2)		41518117-臨床疫学・経済学演習(2)			3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35	41518218-医療倫理学Ⅰ(2)*3	41518219-医療倫理学Ⅱ(2)					5	
	6 18:45 20:30							6	
金	1 8:30 10:15				41518214-健康社会学(2)	41518213-健康教育学(2)*2		1	金
	2 10:25 12:10	41518111-疫学研究と実践(2)*1				41518221-社会と健康Ⅱ(2)		2	
	3 13:00 14:45							3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35				41518326-社会保障政策(2)			5	
	6 18:45 20:30							6	

業夏	8月	2週目 (予定)	41518112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	2～3週目 (予定)	41518321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休			

** 必修科目

*1～5 選択必修科目

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W		
曜日	時限	4/5～5/31	6/3～7/29	8/1～9/30	10/02～11/27	11/28～1/31	2/3～3/7		
		8W	8W	9W	8W	8W	4W		
月	1 8:30 10:15			下記特記 事項参照				1	月
	2 10:25 12:10	41518311-健康医療政策学(2)*4			41518322-Environmental Health 環境健康医学(2)*5			2	
	3 13:00 14:45	41518316-法医学・医事法学(2)*3			41518330-Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研究方法論(2)			3	
	4 14:55 16:40	41518511-公共健康医学特論(2)						4	
	5 16:50 18:35							5	
	6 18:45 20:30							6	
火	1 8:30 10:15	41518223-保健医療人材育成学(2)			41518224-プライマリヘルスケア学(2)			1	火
	2 10:25 12:10							2	
	3 13:00 14:45	41518120-医療コミュニケーション学(2)	41518115-医学研究のデザイン(2)*1		41518127-医学研究データマネジメントとCDISC標準(1)	41518320-健康危機管理学(1)		3	
	4 14:55 16:40				41518130-医療系学部出身者のための人文社会科学入門(1)			4	
	5 16:50 18:35	41518211-精神保健学Ⅰ(2)*2			41518212-精神保健学Ⅱ(2)			5	
	6 18:45 20:30							6	
水	1 8:30 10:15	41518118-保健医療経済学(2)	41518116-臨床疫学(2)		41518222-産業保健の理論と実践(2)*5			1	水
	2 10:25 12:10							2	
	3 13:00 14:45		41518122-医療コミュニケーション学演習(2)		41518128-がん疫学(1)			3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35							5	
	6 18:45 20:30							6	
木	1 8:30 10:15				41518220-社会と健康Ⅰ(2)*3	41518124-医療技術評価学演習(1)		1	木
	2 10:25 12:10	41518126-臨床医学概論(1)						2	
	3 13:00 14:45	41518113-医学データの統計解析(2)**	41518114-医学統計学演習(2)		41518117-臨床疫学・経済学演習(2)			3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35	41518218-医療倫理学Ⅰ(2)*3	41518219-医療倫理学Ⅱ(2)					5	
	6 18:45 20:30							6	
金	1 8:30 10:15				41518214-健康社会学(2)	41518213-健康教育学(2)*2		1	金
	2 10:25 12:10	41518111-疫学研究と実践(2)*1						2	
	3 13:00 14:45					41518221-社会と健康Ⅱ(2)		3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35				41518326-社会保障政策(2)			5	
	6 18:45 20:30							6	

業夏	8月	2週目 (予定)	41518112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	2～3週目 (予定)	41518321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休			

** 必修科目

*1～5 選択必修科目

※医療情報システム学(S1金曜3・4限)は休講

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W		
曜日	時限	4/5～5/31	6/3～7/29	8/1～9/30	10/02～11/27	11/28～1/31	2/3～3/7		
		8W	8W	9W	8W	8W	4W		
月	1 8:30 10:15			下記特記 事項参照				1	月
	2 10:25 12:10	41518311-健康医療政策学(2)*4			41518322-Environmental Health 環境健康医学(2)*5			2	
	3 13:00 14:45	41518316-法医学・医事法学(2)*3			41518330-Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研究方法論(2)			3	
	4 14:55 16:40	41518511-公共健康医学特論(2)						4	
	5 16:50 18:35							5	
	6 18:45 20:30							6	
火	1 8:30 10:15	41518223-保健医療人材育成学(2)			41518224-プライマリヘルスケア学(2)			1	火
	2 10:25 12:10							2	
	3 13:00 14:45	41518120-医療コミュニケーション学(2)	41518115-医学研究のデザイン(2)*1		41518127-医学研究データマネジメントとCDISC標準(1)	41518320-健康危機管理学(1)		3	
	4 14:55 16:40				41518130-医療系学部出身者のための人文社会科学入門(1)			4	
	5 16:50 18:35	41518211-精神保健学Ⅰ(2)*2			41518212-精神保健学Ⅱ(2)			5	
	6 18:45 20:30							6	
水	1 8:30 10:15	41518118-保健医療経済学(2)	41518116-臨床疫学(2)		41518222-産業保健の理論と実践(2)*5			1	水
	2 10:25 12:10							2	
	3 13:00 14:45		41518122-医療コミュニケーション学演習(2)		41518128-がん疫学(1)			3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35							5	
	6 18:45 20:30							6	
木	1 8:30 10:15				41518220-社会と健康Ⅰ(2)*3	41518124-医療技術評価学演習(1)		1	木
	2 10:25 12:10	41518126-臨床医学概論(1)						2	
	3 13:00 14:45	41518113-医学データの統計解析(2)**	41518114-医学統計学演習(2)		41518117-臨床疫学・経済学演習(2)			3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35	41518218-医療倫理学Ⅰ(2)*3	41518219-医療倫理学Ⅱ(2)					5	
	6 18:45 20:30							6	
金	1 8:30 10:15				41518214-健康社会学(2)	41518213-健康教育学(2)*2		1	金
	2 10:25 12:10	41518111-疫学研究と実践(2)*1				41518221-社会と健康Ⅱ(2)		2	
	3 13:00 14:45							3	
	4 14:55 16:40							4	
	5 16:50 18:35				41518326-社会保障政策(2)			5	
	6 18:45 20:30							6	

業夏	8月	2週目 (予定)	41518112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	2～3週目 (予定)	41518321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休			

** 必修科目

*1～5 選択必修科目

※医療情報システム学(S1金曜3・4限)、医療情報システム学実習(S2木曜1・2限)、公共健康情報学(S2金曜3・4限)、公共健康情報学演習(A1金曜3・4限)は休講

科 目 名	疫学研究と実践		
タ ー ム	2025 年度 S 1, S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 2		
担 当 教 員	村上 健太郎		
授 業 の 目 的	疫学研究ならびに公衆衛生活動を実際に行いたいと考えている学生にとって必須の「疫学的な考え方」と知識、基本的な技術を提供する講義である。 地域・職域など、社会（生活環境下）で実施する疫学研究の理論と方法についての基本を理解することを目的とする。この種の疫学研究を実施・実践する際や利用する際に考慮すべき点を理解し、その具体的な方法と技術について学ぶ。 主な内容は次の通り：予防保健と疫学の関連、疫学的思考法、疫学研究論文の読み方、疫学研究のデザイン、測定誤差の種類と対策、疾患からみた疫学研究、生活要因からみた疫学研究、保健業務における疫学研究の考え方と方法、保健業務や疾病予防活動への研究成果の利用方法、その他。		
授 業 の 方 法	・ 1 回目と 3 回目は講義のみ。適宜、討論を行う。 ・ 4 回目から 12 回目は講義後に宿題（小レポート）が課される。ITC-LMS にて提出（方法は講義にて説明）。 ・ 5 回目から 13 回目までは小レポートの発表を課されることがある。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	1) 4/04 序論（疫学とは） 2) 4/18 疫学研究の実際 3) 4/25 記述疫学の目的と方法 4) 5/09 生態学的研究の目的と方法 5) 5/16 疫学における「集団」の考え方（1） 6) 5/23 疫学における「集団」の考え方（2） 7) 5/30 疫学における「測定方法」の考え方（1） 8) 6/06 疫学における「測定方法」の考え方（2） 9) 6/13 横断研究の目的と方法 10) 6/20 コホート研究の目的と方法 11) 6/27 症例対照研究の目的と方法 12) 7/04 介入研究の目的と方法 13) 7/11 レビュー、メタ・アナリシスの目的と方法 （注意）7/18 を予備日とする。		
教 科 書	テーマごとに資料が配布される。講義前日までに ITC-LMS にて配布の予定。あらかじめ一読しておくことが勧められる。		
参 考 書	講義毎に異なる。適宜指示する。		
成績評価の方法	出席（配点：およそ 4 割）、小レポート（同：およそ 4 割）と講義時間中の質疑応答など（同：およそ 2 割）を合算して判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	・ 講義中における質疑応答ならびに小レポートを用いた発表・質疑応答への積極的な参加を重視する。 ・ 「予防保健の実践と評価」を学ぶための必須の基礎理論となる。（注：本講義を受講しなくても「予防保健の実践と評価」を受講することはできる。）		

科 目 名	予防保健の実践と評価		
タ ー ム	2025 年度 夏季	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	集中		
担 当 教 員	村上 健太郎		
授 業 の 目 的	公衆衛生活動・保健活動などを実際に行いたい、間接的にでもこれらに関連する職業に就きたいと考えている学生にとって必須の知識と技術、考え方を提供する講義である。 地域・職域などをフィールドとして行う疫学研究や予防保健領域の実践活動の計画・実践・評価の方法、政策への活用などについて、さまざまな実例を用いて、実践者・研究者からの紹介を通じて学ぶ。『理論だけでは解決できない現実に対して科学性を保ちながらどのように対処するか』という実践的な視点からの予防保健の知識や技術の獲得を主な目的とする。		
授 業 の 方 法	・各回でテーマを設けてその分野の実践者・研究者から講義を聞き、その後、講師と討論を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 8/4 地域にねざした研究と実践について、実例を交えて学ぶ (2～4 限の予定) 2) 8/5 公衆衛生調査の行われ方とあり方について、実例を通して学ぶ (2～3 限の予定) 3) 8/6 生活習慣を例として、予防保健の理論と実践ならびにその評価方法について学ぶ (2～4 限の予定) 4) 8/7 予防保健分野における実態把握ならびに活動評価に必要な調査技術について学ぶ (2～3 限の予定) 5) 8/8 環境衛生の研究と実践について、実例を交えて学ぶ (2～4 限の予定) 原則としてすべての日で、担当教員による基礎知識に関する講義と外来講師 (実践者・研究者) による講義・討論を行う。 (注意) 講義の順序ならびに内容は変更がありうる。公共健康医学専攻以外の学生は7月下旬に担当教員宛または ITC-LMS にて確認されたい。		
教 科 書	・テーマごとに資料が配布される。講義前日までに ITC-LMS にて配布の予定。あらかじめ一読しておくことが勧められる。		
参 考 書	・講義毎に異なる。適宜指示する。		
成績評価の方法	・講義への出席 (配点: およそ 4 割) ならびに講義内での討論の内容 (質問と発言) (配点: およそ 6 割) を総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	・講義中の討論における積極的な参加を重視する。 ・「疫学研究と実践」を履修したうえで本講義を受講することを勧める (ただし、必須ではない)。		

科 目 名	医学データの統計解析		
タ ー ム	2025 年度 S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 3, 木 4		
担 当 教 員	松山 裕、萩原 康博、吉田 唯		
授 業 の 目 的	統計的推測の基礎とともに、医学研究で日常的に用いられる統計解析手法、及びやや高度ながら身に付けておくべき統計解析手法について、実例を中心に教え、医学論文を読むうえで必須となる統計基礎知識を習得させると同時に、自らが統計解析を行ううえでの基礎能力を身に付けることを目的とする。		
授 業 の 方 法	・ 講義形式（テーマごとに資料が配布される） ・ 毎回の講義に関連したミニレポートを毎週提出すること ・ 講義場所は医学部教育研究棟 1 3 F 第 6 セミナー室 ・ 感染状況によっては、オンラインになる場合がある。UTAS ならびに UTOL の該当部分を必ずチェックすること。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	講義資料はすべて、UTOL にアップロードされる。 4 月 10 日 医学研究における統計学の活用 4 月 17 日 治療効果・曝露効果の指標と 95%信頼区間 4 月 24 日 2 群の比較 5 月 01 日 層別解析・ロジスティック回帰 5 月 08 日 分散分析入門・相関と回帰 5 月 15 日 生存時間解析 5 月 22 日 経時データ解析入門、サンプルサイズ設計 期末試験の日時は、8 月 1 日（金）3 限を予定（変更の可能性もある）		
教 科 書	下記、参考書欄を参照		
参 考 書	初級者向け参考書 ・ はじめて学ぶ医療統計学. 折笠秀樹 監訳（総合医学社） ・ 一歩進んだ医療統計学. 折笠秀樹 監訳（総合医学社） 中級者以上向け参考書 ・ 医学研究における実用統計学. DG Altman 著 木船・佐久間訳（サイエンティスト社） ・ Lang et al. (著) 大橋・林 監訳：わかりやすい医学統計の報告・医学論文作成のためのガイドライン- 中山書店、2011. ・ 医師のための臨床統計学 基礎編. 大橋靖雄 編著 医歯薬出版株式会社		
成績評価の方法	期末試験（80%）、毎回の小レポート（10%）、出席（10%）で評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	受講希望者は 1 回目の講義に必ず出席すること。 講義方法は対面とするが、UTAS ならびに UTOL の該当部分を必ずチェックすること。		

科 目 名	医学統計学演習		
タ ー ム	2025 年度 S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 3, 木 4		
担 当 教 員	大庭 幸治、萩原 康博、吉田 唯		
授 業 の 目 的	「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて統計解析ソフト JMP で演習を行う。その後、各グループで探索的な研究仮説を検討したのち、eStat (https://www.e-stat.go.jp/)にて公開されている公的データを利用して JMP を用いた解析を実施し、解析結果の発表を行い結果の提示方法を学ぶ。 そのため、授業開始前に、各自の PC に JMP をインストールして、インストール済みの PC を持参すること。PC を持っていない学生は、事前に担当教員まで連絡をすること。		
授 業 の 方 法	対面での演習を想定しているが、新型コロナウイルス感染症の流行に応じて適宜変更を行う。 ・ JMP の使用についての演習を行う。 ・ 解析手法について簡単なインストラクションの後、実例を用いた解析演習を行い、レポートを作成する。 ・ 後半では、実際のデータを JMP を用いて解析し、班別に結果を発表する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	06/05 JMP 入門 06/12 2 群の比較 06/19 相関と回帰、分散分析 06/26 分割表の解析とロジスティック回帰 07/03 生存時間解析 07/10 多変量解析、データ解析実習 07/17 データ解析実習 07/24 データ解析実習 発表会		
教 科 書	・ 「医学データの統計解析」と同様の教科書 ・ 統計ソフト JMP 内、ヘルプドキュメンテーション（日本語版） ・ 心理統計学の基礎 統合的理解のために（有斐閣アルマ） ・ 続・心理統計学の基礎 統合的理解を広げ深める（有斐閣アルマ） ・ 医学研究のための多変量解析（メディカル・サイエンス・インターナショナル）		
参 考 書	教科書を参照のこと		
成績評価の方法	出席並びに発表(50%)と各講義で出されるレポート(50%)で合・否判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	授業開始前に、各自の PC に JMP をインストールして、インストール済みの PC を持参すること。インストールの方法は、「医学データの統計解析」において配布する JMP のインストールについてを参照のこと。		

科 目 名	医学研究のデザイン		
タ ー ム	2025 年度 S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 3, 火 4		
担 当 教 員	松山 裕、萩原 康博、吉田 唯		
授 業 の 目 的	疫学研究・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義・演習を行う。 主要雑誌に掲載される論文について、特にデザインについて理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力並びに研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。		
授 業 の 方 法	・テーマ毎に講義・演習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	講義資料はすべて、UTOL にアップロードされる。 6/10 研究デザインの分類と特徴：観察研究のデザイン総論（松山） 6/17 研究デザインの分類と特徴：臨床試験のデザイン総論（松山） 6/24 臨床試験のデザインとプロトコル作成：CONSORT による論文チェック（林） 7/01 疫学研究のデザインとプロトコル作成：STROBE による論文チェック（林） 7/08 傾向スコアを用いた研究デザイン：傾向スコアの正しい使い方（松山） 7/15 医薬品の承認審査・先進医療の評価の概要と実際（柴田） 7/22 データマネジメントと品質管理：研究組織と運営（辻井）		
教 科 書	講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。 ・Hulley et al. (著) 木原・木原 訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009. ・Lang et al. (著) 大橋・林 監訳：わかりやすい医学統計の報告・医学論文作成のためのガイドライン・中山書店、2011.		
参 考 書	講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。 ・Hulley et al. (著) 木原・木原 訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009. ・Lang et al. (著) 大橋・林 監訳：わかりやすい医学統計の報告・医学論文作成のためのガイドライン・中山書店、2011.		
成績評価の方法	出席（50%）、レポート・演習報告等（50%）で評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	履修希望者は1回目の講義に必ず出席すること。 講義方法は対面（教育研究棟 13F SPH 講義室）。 感染状況によっては、オンラインになることもある。 UTAS ならびに UTOL の該当部分を必ずチェックすること。		

科 目 名	臨床疫学		
タ ー ム	2025 年度 S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 1, 水 2		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。		
授 業 の 方 法	講義で基礎的知識を提供・整理したのち、既存の研究を題材にディスカッションをしてもらい知識の体系化を図る。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) (6/4、1 限) 臨床疫学の基礎知識 1 2) (6/4、2 限) 臨床疫学の基礎知識 2 3) (6/11、1 限) EBM と診療ガイドライン 4) (6/11、2 限) 臨床診断 5) (6/18、1 限) 回帰分析の注意点 6) (6/18、2 限) 生存時間分析と競合リスクモデル (麻生将太郎) 臨床予測モデル (笹渕裕介) 7) (6/25、1 限) 傾向スコア分析(propensity score analysis) 8) (6/25、2 限) コホート研究、症例対照研究、自己対照研究デザイン(岩上将夫) 9) (7/2、1 限) ランダム化比較試験とリアルワールドデータ研究 10) (7/2、2 限) 大規模医療データのハンドリング (松居宏樹) 11) (7/9、1 限) 操作変数法(instrumental variable method) 12) (7/9、2 限) 差の差分析、回帰分断デザイン (山名隼人) 13) 14) (7/16、1・2 限) レポート発表会 ※講義の順番は変更することがある		
教 科 書	康永秀生.できる！臨床研究 最短攻略 50 の鉄則.金原出版 2017		
参 考 書	Fletcher GS. Clinical Epidemiology: The Essentials. Sixth Edition. Lippincott,Williams&Wilkins. 2020		
成績評価の方法	出席点 50 点、レポート 50 点		
他の授業との関連・履修上の注意	※本講義の資料は、各講義の前日までに UTOL にアップロードされるので、各自で講義前にダウンロードしてください。 ※非医師の学生で本講義の履修を希望する者は、S1 ターム「臨床医学概論」の履修を推奨します。 ※医学部教育研究棟 13 階の第 6 セミナー室で、対面講義を実施します。		

科 目 名	臨床疫学・経済学演習		
タ ー ム	2025 年度 A 1, A 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 3, 木 4		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	1. 医学英語論文の書き方を学ぶ 在学中から医学英語論文を書こうと真剣に考えている学生を対象とする。 2. 研究費申請書の書き方を学ぶ 卒業後に研究費を申請することを真剣に検討している学生を対象とする。 各自の臨床または公衆衛生の経験をもとに研究テーマを確立し、研究の背景・目的・方法・期待される結果を記述し、研究経費の見積もり等を作成する、実践的なスキルを身につける。(論文執筆や研究費申請の経験の有無は問わない)		
授 業 の 方 法	原則として、3 限は医学英語論文の書き方演習、4 限は研究費申請書(文部科学研究費・若手研究または基盤 C のフォーマットに従う)作成の個別指導。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/2 3 限 医学論文を書くための準備(1) (康永, 笹渕, 麻生) 4 限 研究費申請書の書き方(1) (康永, 松居) 10/9 3 限 医学論文を書くための準備(2) (康永, 笹渕, 麻生) 4 限 研究費申請書の書き方(2) (康永, 松居) 10/16 3 限 Title (康永, 笹渕, 麻生) 4 限 個別指導 (康永, 松居) 10/23 3 限 Abstract (康永, 笹渕, 麻生) 4 限 個別指導 (康永, 松居) 10/30 (公衆衛生学会のため休み) 11/6 3 限 Introduction (康永, 笹渕, 宮本) 4 限 研究計画の口頭説明 (康永) 11/13 3 限 Methods, Results (康永, 笹渕, 宮本) 4 限 個別指導 (康永, 松居) 11/20 3 限 Discussion(1) (康永, 笹渕, 宮本) 4 限 個別指導 (康永, 松居) 11/27 3 限 Discussion(2) (康永, 笹渕, 宮本) 4 限 個別指導 (康永, 松居) 12/4 3 限 Discussion(3) (康永, 笹渕, 宮本) 4 限 個別指導 (康永, 松居) 12/11 3 限 論文の Submission (康永) 4 限 個別指導 (康永, 松居) 12/18 3・4 限 研究計画の中間発表 (康永, 松居) 1/8 3 限 Reviewer comment (1) (康永) 4 限 個別指導 (康永, 松居) 1/15 3 限 Reviewer comment (2) (康永) 4 限 研究費申請書の審査 (康永, 松居) ※講義・演習の順番は変更となることがある。		
教 科 書	康永秀生. 必ずアクセプトされる医学英語論文 完全攻略 50 の鉄則. 金原出版.		
参 考 書	なし		
成績評価の方法	出席 30%、毎回の課題 30%、最後に提出する研究費申請書 40%により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	履修・聴講ともに、「臨床疫学」講義の受講が必須。 履修(3・4 限ともに履修し単位取得)希望者は、10 名程度まで受け入れ可。 S2 ターム「臨床疫学」講義の受講者から、本演習の履修希望者を 7 月中に募集する。 履修希望者が 10 名を超える場合は、「臨床疫学」講義の成績上位者を優先する。 3 限のみの聴講は可能。(この場合も「臨床疫学」講義の受講は必須。単位取得はできないので注意)。4 限の聴講のみは不可。		

科 目 名	保健医療経済学		
タ ー ム	2025 年度 S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 1, 水 2		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	1. 医療経済学の基礎知識を身に着ける。 2. 医療経済学の考え方に沿って、現実の医療経済政策における個別の課題について考察する力をつける。		
授 業 の 方 法	講義とグループディスカッション		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1)医療経済学の基礎 1 (康永) (4 月 9 日 1 限) 2)医療経済学の基礎 2 (康永) (4 月 9 日 2 限) 3)保険の理論 (康永) (4 月 16 日 1 限) 4)医療サービス市場における競争・規制 (康永) (4 月 16 日 2 限) 5)供給者誘発需要仮説 (康永) (4 月 23 日 1 限) 6)医療制度の国際比較 (康永) (4 月 23 日 1 限) 7)医療経済学と医療政策 1 (康永) (5 月 7 日 1 限) 8)医療費増加の要因 (康永) (5 月 7 日 2 限) 9)医療経済学と医療政策 2 (康永) (5 月 14 日 1 限) 10)行動経済学 (後藤励) (5 月 14 日 2 限) 11)医療費適正化 (康永) (5 月 21 日 1 限) 12)医療経済学と医療政策 3 (康永) (5 月 21 日 2 限) 13)医療経済学と医療政策 4 (康永) (5 月 28 日 1 限) 14)介護と地域包括ケア (康永) (5 月 28 日 2 限) ※各講義の順番は変更することがある		
教 科 書	なし		
参 考 書	橋本英樹/泉田信行編. 医療経済学講義. 東京大学出版会		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連・履修上の注意	なし		

科 目 名	医療コミュニケーション学		
タ ー ム	2025 年度 S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 3, 火 4		
担 当 教 員	木内 貴弘、奥原 剛		
授 業 の 目 的	本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにある。医療コミュニケーション学（ヘルスコミュニケーション学）とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であり、保健医療専門職間、保健医療専門職と患者・市民間、患者・市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュニケーションを対象とする。本講義では、保健医療・公衆衛生分野における専門職として効果的なコミュニケーションを実践するために必要な、(1)コミュニケーションの基本的な理論、(2)コミュニケーションの具体的な方略やスキル、(3)コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱う。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。		
授 業 の 方 法	各回1テーマの講義を原則とするが、ワークを行うことがある。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4 月 8 日 3 限 13:00-14:45 医療（ヘルス）コミュニケーション学概論 木内貴弘 4 月 8 日 4 限 14:55-16:40 ヘルスコミュニケーションの研究 奥原剛 4 月 15 日 3 限 13:00-14:45 よりよい患者・医療者間コミュニケーションに向けて①患者の語りによるコミュニケーション教育 香川由美（岩手医科大学） 4 月 15 日 4 限 14:55-16:40 よりよい患者・医療者間コミュニケーションに向けて②実証研究に基づくコミュニケーションの改善 石川ひろの（帝京大学） 4 月 22 日 3 限 13:00-14:45 リスクコミュニケーション&コミュニティエンゲージメント:理論から実践へ 加藤美生（国立健康危機管理研究機構） 4 月 22 日 4 限 14:55-16:40 組織のコミュニケーション コーチング・カウンセリング・メンターリング 榊原圭子（東洋大学） 5 月 13 日 3 限 13:00-14:45 メディアコミュニケーションを理解する①新聞 本田麻由美（読売新聞） 5 月 13 日 4 限 14:55-16:40 よりよい患者・医療者間コミュニケーションに向けて③外国人患者とのコミュニケーション 大野直子（順天堂大学） 5 月 20 日 3 限 13:00-14:45 行動変容のためのヘルスコミュニケーション 奥原剛 5 月 20 日 4 限 14:55-16:40 ビジュアルコミュニケーション 臨床におけるビジュアルツールの役割と影響 原木万紀子（Tallinn University） 5 月 27 日 3 限 13:00-14:45 メディアコミュニケーションを理解する②インターネット 中山和弘（聖路加国際大学）		

	5月27日4限 14:55-16:40 メディアコミュニケーションを理解する③テレビ 藤本洋平 (NHK) 6月3日3限 13:00-14:45 ソーシャルマーケティングによる価値創造：理論と実践 瓜生原葉子 (同志社大学) 6月3日4限 14:55-16:40 まとめ：グループ討論と総合討論 木内貴弘、奥原剛、岡田宏子
教科書	石川ひろの 著. 保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門. 大修館書店. 2020
参考書	・奥原剛 著. 実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション. 大修館書店. 2021 ・Athena du Pre. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives. 5th ed. Oxford University Press. 2016 ・Philip Kotler, Nancy R. Lee. Social Marketing: Influencing Behaviors for Good. Saga Pub
成績評価の方法	講義への出席 (40%)、Eラーニング受講 (10%)、レポート (50%) による。 ※レポート課題と Eラーニング受講の詳細は、ITC-LMS の課題欄を確認してください。
他の授業との関連・履修上の注意	医療コミュニケーション学演習の前に受講することが望ましい。健康社会学、健康教育学等と関連する。 予習、復習に、教科書、参考書、配布資料、講義で指定される Eラーニングを活用してください。 講義で指定される Eラーニングを、レポート提出期限までに受講完了してください。

科 目 名	医療コミュニケーション学演習		
タ ー ム	2025 年度 S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 3, 水 4		
担 当 教 員	木内 貴弘、奥原 剛		
授 業 の 目 的	効果的な医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）を行うために必要なスキルを、対人コミュニケーション、メディアを通じたコミュニケーションそれぞれ具体的に取り上げ、演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ理論や方略に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場（医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等）でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。		
授 業 の 方 法	・各回、課題にもとづいて演習・発表・討論を行う。 ・演習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	6 月 4 日(水) 13:00-16:40 ヘルスライティング（1）患者・家族を支援する説明文書を作る 注意：ノート PC 持参のこと 高山智子（静岡社会健康医学大学院大学） 6 月 11 日(水) 13:00-16:40 行動変容を支援するスキル コーチング演習 半谷知也（LBJ） 6 月 18 日(水) 13:00-16:40 メディア報道のあり方を考える メディアドクター演習 渡邊清高（帝京大学） 6 月 25 日(水) 13:00-16:40 ヘルスライティング（2）市民の行動変容を促す保健医療文書を作る 注意：ノート PC 持参のこと 奥原剛 7 月 2 日(水) 13:00-16:40 自分を知る・相手を知る MBTI（Myers-Briggs Type Indicator）演習（1） 園田由紀（日本 MBTI 協会） 7 月 9 日(水) 13:00-16:40 自分を知る・相手を知る MBTI 演習（2） 園田由紀（日本 MBTI 協会） 7 月 16 日(水) 13:00-16:40 自分を知る・相手を知る MBTI 演習（3） 園田由紀（日本 MBTI 協会） 7 月 23 日(水) 13:00-16:40 ヘルスライティング（3） 発表会・総合討論 注意：ノート PC 持参のこと 木内貴弘、高山智子、奥原剛、岡田宏子		
教 科 書	特に指定しない。		
参 考 書	・石川ひろの 著. 保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門. 大修館書店. 2020 ・奥原剛 著. 実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション. 大修館書店. 2021 ・ロジャー・R.ペアマン, サラ・C.アルブリット 著. 園田由紀 訳. MBTI へのいざないーユングの「タイプ論」の日常への応用. JPP. 2012. ・ヘンリー・キムジーハウス他著. コーチング・バイブル：人の潜在力を引き出す協働的コミュニケーション(第4版). 東洋経済新報社. 2020		

成績評価の方法	出席（60%）、演習内でのプレゼンテーション・作成した資料・レポート（40%）によって評価する。演習への参加が前提となるため、やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出ること。特に MBTI 演習は3回とも出席できることを前提とする。
他の授業との関連・履修上の注意	・「医療コミュニケーション学」講義を受講していることが望ましい。 ・ MBTI 演習については履修登録なしの聴講を認めない。 ・ 予習、復習に教科書、参考書、配布資料を活用してください。

科 目 名	医療技術評価学演習		
タ ー ム	2025 年度 A 2	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	木 2		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	・ 医療技術評価(Health Technology Assessment, HTA)の基本を身に着ける。 ・ 費用効果分析のための臨床アウトカム及びコスト情報の収集、QOL 評価、決定樹・マルコフモデルの作成、費用対効果の算出、感度分析などの一連の医療経済評価手法を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義と演習。一部、Excel を用いた演習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1. (12 月 4 日) 医療技術評価学の基礎 2. (12 月 11 日) 費用効果分析・その 1 3. (12 月 18 日) QOL 評価 (五十嵐中) 4. (12 月 25 日) 費用効果分析・その 2 5. (1 月 8 日) 医療技術評価と医療政策 (池田俊也) 6. (1 月 15 日) 費用効果分析・その 3 7. (1 月 22 日) 費用効果分析・その 4 ※講義の順番は変更することがある		
教 科 書	なし		
参 考 書	Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes Fourth Edition. Oxford Medical Publications 2015		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連・履修上の注意	実施形態：対面 講義場所：医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室		

科 目 名	臨床医学概論		
タ ー ム	2025 年度 S 1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	木 2		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	非医師の学生向け。 臨床医学に関する基礎知識を身に着ける。 医学用語を習得し、医学論文を読むための基礎力を養う。		
授 業 の 方 法	系統講義を通じて、解剖・生理、診断・治療および疾患の疫学について要点を解説する。 また、医学用語（日本語・英語）を解説し、基礎的な医学論文の読解を行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	1. 脳神経（4/10） 2. 循環器・呼吸器（4/17） 3. 消化器（4/24） 4. 腎・泌尿器、生殖器（5/8） 5. 感覚器、運動器(5/15) 6. 感染症、中毒、血液(5/22) 7. 内分泌・代謝、膠原病・アレルギー(5/29) ※講義の順番は変更することあり		
教 科 書	なし（毎回、テーマ毎に資料が配布される）		
参 考 書	なし		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連・履修上の注意	本講義の資料は、各講義の前日までに UTOL にアップロードされるので、各自で講義前にダウンロードしてください。 ※医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻(SPH)講義室にて、対面で講義を実施します。		

科 目 名	医学研究データマネジメントと CDISC 標準		
タ ー ム	2025 年度 A 1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	火 3		
担 当 教 員	木内 貴弘、奥原 剛		
授 業 の 目 的	CDISC(Clinical Data Interchange Standards Consortium)標準は、治験電子申請用の臨床研究データと付随するメタデータの国際標準として策定され、治験に関しては米国と日本では規制当局により利用が強制されている。また臨床・疫学研究データの電子的収集・データマネジメント・統計解析・アーカイブ化等の全ての場面で活用可能な形に拡張され、将来はアカデミアへの普及も確実視されている。日本では、国際標準の意義、役割、活用についての医学界の認識が不十分である。本講義では、CDISC 標準活用によるデータ、ソフト、研究業務の相互運用性の重要性を学ぶとともに、医学と情報学の学際的分野である臨床・疫学研究データマネジメントの実際に触れることを目的とする。		
授 業 の 方 法	スライド、配布資料を用いて、講義及び質疑応答を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10 月 7 日(火) 13:00-14:45 I. CDISC 標準概論 CDISC 標準とは 木内貴弘、千葉吉輝 (Chiba Planning Office) 10 月 14 日(火) 13:00-14:45 II. 医学研究データマネジメント概論 臨床・疫学研究データマネジメントとは 宮路天平 (東京大学 先端科学技術研究センター) 10 月 21 日(火) 13:00-14:45 III. 症例報告書の標準化 – CDASH / データ形式の標準化 – SDTM Clinical Data Acquisition Standards Harmonization / Study Data Tabulation Model 千葉吉輝 (Chiba Planning Office) 10 月 28 日(火) 13:00-14:45 IV. 解析データセットの標準化 – AdaM Analysis Data Model 山口拓洋 (東北大学大学院医学系研究科 医学統計学分野) 11 月 4 日(火) 13:00-14:45 V. データとメタデータ – Define.xml CDISC Define.xml 千葉吉輝 (Chiba Planning Office) 11 月 11 日(火) 13:00-14:45 VI. CDISC 標準による治験の電子申請 日本における新薬承認申請の現状と展望 安藤友紀 (医薬品医療機器総合機構) 11 月 18 日(火) 13:00-14:45 VII. データ形式の標準化の実例 – SDTM 齋藤俊樹 (国立病院機構本部)		
教 科 書	教材として、スライドのハンドアウトを各回に配布する。また CDISC ホームページ (http://www.cdisc.org/) を必要に応じ、参照すること。		
参 考 書	特に指定しない。		
成績評価の方法	出席(50%)及び課題レポート(50%)により総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	医学データの統計解析、医学研究のデザイン、公共健康情報学、医療情報システム学と関係を有し、共に受講が望ましい。製薬会社の治験、医師主導の治験では CDISC 標準は PMDA からその利用が強制されていること、将来はアカデミックな領域でも症例報告書・調査票作成、データマネジメント、統計解析等を CDISC 標準にもとづいて実施するようになることが確実であることから、将来、生物統計、臨床試験、疫学、医療情報システムの研究・実務に従事する予定の学生には履修を強く推奨する。予習、復習に配布資料を活用してください。		

科 目 名	がん疫学		
タ ー ム	2025 年度 A 1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	水 3		
担 当 教 員	井上 真奈美、康永 秀生		
授 業 の 目 的	「がんの疫学」について、専門家として必要な知識を体系的に習得する。集団レベルでのがんの予防をめざすには、その背景にあるがんの地理的分布や推移を把握した上で、予防に向けた要因の解明が必須である。具体的には、がん記述統計の必須基盤としてのがん登録手法、がんの要因を解明するための分析疫学研究、近年注目されているゲノム疫学手法、一つ一つの疫学的エビデンスを施策に結びつけるための橋渡し研究であるシステムティック・レビューやメタ・アナリシス、統合解析、エビデンスに基づくがん予防法やその普及実装のための研究、がん検診の考え方、について、国内外の状況や事例も網羅して、系統的に学ぶ。最終回には、課題として各自が選定したがん疫学関連トピックについてまとめたものを短時間で発表する。		
授 業 の 方 法	講義、課題発表		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1)講義：がん疫学の概要、記述疫学（地理的分布、推移、がん統計）（井上 10/8、3 限） 2)講義：がんの分析疫学研究によるエビデンス創出（井上 10/15、3 限） 3)講義：がん疫学研究におけるゲノム疫学（後藤 10/22、3 限） 10 月 29 日は公衆衛生学会で休講 4)講義：がん予防の普及と実装のための研究（島津 11/5、3 限） 5)講 義：施策に向けたがんの要因評価（リスク評価、系統的レビューとメタアナリシス、統合解析、要因負荷研究）（井上 11/12、3 限） 6)講義：がん検診、がん対策につなげた疫学事例（井上 11/19、3 限） 7)講義：課題発表（井上 11/26、3 限）		
教 科 書	指定なし。		
参 考 書	・ Adami HO et al (eds): Textbook of Cancer Epidemiology, 3rd Edition. Oxford University Press. ・ 木原雅子他訳, 健康行動学:その理論、研究、実践の最新動向. メディカル・サイエンス・インターナショナル (第 16 章) ・ Chambers DA, et al. eds., Advancing the Science of Implementation across th		
成績評価の方法	講義出席（60％）、課題発表と発表資料（要提出）（40％）		
他の授業との関連・履修上の注意	疫学の基礎が理解できていること。		

科 目 名	医療系学部出身者のための人文社会科学入門		
タ ー ム	2025 年度 A 1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	火 4		
担 当 教 員	木内 貴弘		
授 業 の 目 的	「公衆衛生学（＝社会医学）≡人文学・社会科学×基礎・臨床医学」である。人文学・社会科学には様々な分野があるが、これらの共通の基礎をなすのが、世界史、哲学、心理学、社会学(社会思想史)、芸術学であり、これらは人間や人間のつくる社会とはどのようなものなのかについての基礎的な探求を行っている。一方、人文学・社会科学の中でも、法学、政治学、経済学、教育学、コミュニケーション学は、どちらかという実利的・応用的な意味合いが強い。 本講義の目的は、医療系学部出身者を主たる対象として、人文学・社会科学の諸学問に共通する基礎について講義を行うことにより、公衆衛生学や質的研究の方法論への理解を支援することにある。講義のレベルとしては、世界史、哲学、心理学、社会学、芸術学の入門レベルの書籍を容易に読みこなせる程度の知識の習得を目指す。理系の科学の教科書には、当該科学の歴史はほとんど述べられていないが、人文学・社会科学では学問の歴史が非常に重視されている。その理由についても考察する。人文学・社会科学全般の基礎を統合的に概観することにより、各個別の人文学・社会科学分野の学問を学んだ以上のものが得られると考えている。		
授 業 の 方 法	スライド、配布資料を用いて、講義及び質疑応答を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10 月 7 日（火） 人文学・社会科学概論：人文学・社会科学とは何か？ 14:55-16:40 世界史概論：人文学・社会科学ではなぜ歴史が重要か？ 担当：木内貴弘 10 月 14 日（火） 哲学史 1：世界をどのようにみるか？ 14:55-16:40 世界をどのように考えるか？ 担当：木内貴弘 10 月 21 日（火） 哲学史 2：世界をどのようにみるか？ 14:55-16:40 世界をどのように考えるか？ 担当：木内貴弘 10 月 28 日（火） 心理学史：人の心、行動をどのようにみるか？ 14:55-16:40 人の心、行動をどのように考えるか？ 担当：木内貴弘 11 月 4 日（火） 社会学説史：社会をどのようにみるか？ 14:55-16:40 (社会思想史) 社会をどのように考えるか？ 担当：木内貴弘 11 月 11 日（火） 芸術評価：文学研究・文芸批評とはどのようなものか？ 14:55-16:40 担当：木内貴弘 11 月 18 日（火） 芸術表現：映像表現とはどのようなものか？ 14:55-16:40 担当：木内貴弘		
教 科 書	特になし。		

参 考 書	・ジャレット・ダイヤモンド. 銃・病原菌・鉄（上・下）. 草思者社 2013 ・ユヴァル・ノア・ハラリ. サピエンス全史（上・下）. 河出書房新社 2023 ・小阪修平. 新版 イラスト西洋哲学史. 宝島社 2019 ・斎藤哲也. 哲学史入門 I、II、III. NHK 出版新書 2024 ・サミール・オカーシャ. 哲学がわかる 科学哲学新版. 岩波書店 2023 ・サトウタツヤ、高砂美樹. 流れを読む心理学史：世界と日本の心理学. 有斐閣 2022 ・木村至聖. 歴史と理論からの社会学入門. ナカニシヤ出版 2022 ・佐藤俊樹. 社会学の方法：その歴史と構造. ミネルヴァ書房 2011 ・阿部幸大. まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書. 光文社 2024
成績評価の方法	講義への出席（40%）、レポート（60%）による。
他の授業との関連・履修上の注意	予習の必要はない。各講義の聴講後に参考書に挙げられている関連書籍を読むことが望ましい。

科 目 名	精神保健学 I		
タ ー ム	2025 年度 S 1, S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 5		
担 当 教 員	西 大輔		
授 業 の 目 的	精神保健の疫学や方法論を踏まえた上で、精神保健に関する課題の対策を科学的根拠に基づいて立案するための知識・技術を習得することを目的とする。具体的には、精神保健の疫学や方法論を体系的に理解し説明できること、精神保健の第一次・第二次・第三次予防の科学的根拠の現状について説明できること、グループのメンバーとの協働およびリーダーシップのあり方を学びつつ課題に即した精神保健対策を立案できることを到達目標とする。		
授 業 の 方 法	各回 1 つのテーマについて担当教員（または外部講師）による講義と討議、質疑を行う。学生は各回の課題について事前に調べ持参する。課題発表 1 および 2 の回では、学生がグループでテーマに関して発表し、これに担当教員が補足を行い、全員で討論する。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	4/8 オリエンテーション・総論（西） 4/15 精神疾患の疫学（西） 4/22 精神保健サービスの利用（西） 5/13 精神保健対策の社会実装（西） 5/20 トラウマと災害精神保健（西、宮本） 5/27 認知行動療法に基づいたアプローチ（今村） 6/3 生活習慣に基づいたアプローチ（西） 6/10 課題発表 1 科学的根拠に基づく精神保健対策（学生による発表） 6/17 自殺予防対策はどう進めるか（本橋豊） 6/24 認知症ケアの質向上システムを実装する（中西三春） 7/1 薬物対策に何が必要か（松本俊彦） 7/8 発表準備（学生による自習） 7/15 課題発表 2 科学的根拠に基づく精神保健対策を立案する（学生による発表）		
教 科 書	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。		
参 考 書	特になし		
成績評価の方法	出席（20%）、毎回の事前課題の提出（20%）、課題発表 2（30%）、個人レポート（30%）により総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	指定した論文を毎回の講義の前に読み A4 1 枚のレポートにまとめて提出すること。最終回のみ授業時間が 16:50-19:30 となるので注意すること。		

科 目 名	精神保健学Ⅱ		
タ ー ム	2025 年度 A 1, A 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 5		
担 当 教 員	西 大輔		
授 業 の 目 的	精神保健の中でも重要なテーマであるトラウマティックストレス、周産期メンタルヘルス、職場のメンタルヘルスについて、公衆衛生の専門家として必要とされる知識・技術を講義および討論によって習得することを目的とする。パブリックヘルスマインドをもって、トラウマインフォームドケアや、周産期精神保健および産業精神保健の現場における具体的な対策を提案・実践・推進する能力を養成する。		
授 業 の 方 法	担当教員（または外部講師）による講義と討議、質疑を行う。課題発表では、学生が個人でテーマに関して発表し、これに担当教員が補足を行い、全員で討論する。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	10/14 トラウマティックストレス 1 総論（西） 10/21 トラウマティックストレス 2 トラウマインフォームドケア（西） 10/28 トラウマティックストレス 3 レジリエンスと心的外傷後成長（西） 11/4 周産期メンタルヘルス 1 総論（西） 11/11 周産期メンタルヘルス 2 ボンディング障害と公衆衛生的支援（松長） 11/18 周産期メンタルヘルス 3 神経発達症・パートナーのメンタルヘルス（帯包） 11/25 実装科学（佐々木） 12/2 職場のメンタルヘルス総論（今村） 12/9 職業性ストレスの理論と測定（渡辺） 12/16 職場復帰支援（佐々木） 12/23 職場のメンタルヘルス一次予防（関屋） 1/6 ワーク・エンゲイジメント（櫻谷） 1/13 課題発表		
教 科 書	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。		
参 考 書	特になし		
成績評価の方法	出席（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	精神保健疫学の基礎について学ぶ「精神保健学Ⅰ」を受講していることが望ましい。		

科 目 名	健康教育学		
タ ー ム	2025 年度 A 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 1, 金 2		
担 当 教 員	橋本 英樹		
授 業 の 目 的	生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。 This lecture course will provide a quick review of behavioral theories related to health intervention, by applying them to case scenarios. Then, invited lecturers will provide "real world practice" examples for health promotion, with emphasis on marketing, empowerment approach, media message design, and community building. Each frame of theories will be critically discussed for their strength and weakness to help integration of existing frames to facilitate effective health promotion in the community/workplaces.		
授 業 の 方 法	事前に参考資料を I TC-LMS で配布するので、目通しのこと。特に 12 月 13 日はケースメソッド利用するので、事前にシナリオを読み込み、予習が必須。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	11/28 1) 1 限 Micro-meso level theories of behavioral science (橋本) 2) 2 限 Macro level theories of behavioral science applied (橋本) 12/5 3) 1 限 Micro-meso level theories of behavioral science applied (橋本) 4) 2 限 Macro level theories of community organization applied (橋本) 12/12 5) 1 限 Empowerment approach in community I (岩永) 6) 2 限 Empowerment approach in community II (岩永) 12/19 7) 1 限 Health marketing in workplace I (戸津崎) 8) 2 限 Health marketing in workplace II (戸津崎) 12/26 9) 1 限 Marketing and mass media message design in public health (橋本) 10) 2 限 Social marketing through social network intervention (鎌田) 1/16 11) 1 限 Public intervention for community health (足立区衛生部 馬場優子部長) 12) 2 限 Community development in global health (WHO 協会 中村安秀理事長) 1/23 13) 1 限 Health Literacy revisited (橋本) 14) 2 限 Decision making and behavior (橋本)		
教 科 書	handouts and reading materials will be distributed through ITC-LMS beforehand, a week ahead., Students are strongly encouraged to read materials beforehand to effectively join in-class discussion.		
参 考 書	Glanz K, et al. Health Behavior and Health Education Theory, Research and Practice. 4th eds. John Willey and Sons, 2008:他、適宜配布		
成績評価の方法	Class attendance and in-class discussion/questions are counted as in-class contribution that shares 60% of score evaluation, the rest of 40% will be evaluated based on one term paper (short). 出席ならびに講義中発言/ディスカッション参加(60%)・課題およびレポート(40%)		
他の授業との関連・履修上の注意	積極的発言 (質問・コメント)・参加を高く評価する。		

科 目 名	健康社会学		
タ ー ム	2025 年度 A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 1, 金 2		
担 当 教 員	橋本 英樹、高木 大資		
授 業 の 目 的	社会学を基本軸として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。社会疫学や健康の社会的決定要因などを社会・経済学理論と整合的に理解することを助ける。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。 Will provide sociological theory basis to consider health in social context rather than in bio-medical frame, support to theoretically understand the basis of social epidemiology, or the concept such as social determinants of health. Specific focus will be put on themes such as social stratification and health, health impacts of built environment and social environment, medicalization and clinical gaze, and sociology of body/embodiment.		
授 業 の 方 法	lecture and in-class discussion Strongly encourage to read materials beforehand to prepare for in-class discussion		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/3 1) 1 限 Perspective of sociology and health sociology (橋本) 2) 2 限 Social stratification and socioeconomic status (橋本) 10/10 3) 1 限 Social stratification and health (橋本) 4) 2 限 Social relationship and health (桜美林大学 杉澤) 10/17 5) 1 限 Sociology of community applied to health (京都大学 高木) 6) 2 限 Social network analysis (京都大学 高木) 10/24 7) 1 限 Medicine as a social control institution (橋本) 8) 2 限 Chronic illness and stigma (加藤) 10/31 は公衆衛生学会' (休講) 11/7 9) 1 限 Lay epidemiology and preventive paradox (橋本) 10) 2 限 World of medicine archeological perspective (橋本) 11/14 11) 1 限 School and Child health (東) 12) 2 限 World of chronically ill's phenomenological view (橋本) 11/21 13) 1 限 open discussion (橋本)		
教 科 書	handouts and reading materials will be distributed beforehand, a week ahead. reading materials and handouts are distributed through LTC-IMS system a week ahead. Participating students are advised to read the materials beforehand to better join in-c		
参 考 書	Lupton D. Medicine as culture illness, disease, and the body. 2nd eds. SAGE, 2003 他、適宜配布		
成績評価の方法	class attendance and in-class discussion/questions count 40% of score as in-class contribution. Report share 60% of score evaluation. 出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)		
他の授業との関連・履修上の注意	In-class discussion/questions will be counted as contribution for score. The class can be provided in English and Japanese, depending on the students's linguistic needs.		

科 目 名	医療倫理学 I		
タ ー ム	2025 年度 S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 5, 木 6		
担 当 教 員	中澤 栄輔、森 克美、瀧本 禎之		
授 業 の 目 的	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を学ぶ。医療倫理学総論、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授 業 の 方 法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	2025 年 4 月 10 日 （1）生命・医療倫理学とは / 倫理学の基礎 1 2025 年 4 月 17 日 （2）倫理学の基礎 2 / 医療倫理の原則と重要概念 2025 年 4 月 24 日 （3）IC の法理 / 終末期医療 2025 年 5 月 1 日 （4）ケアの倫理 / 生殖補助医療 2025 年 5 月 8 日 （5）臨床における倫理的検討法 2025 年 5 月 15 日 （6）守秘義務 / 研究倫理 2025 年 5 月 22 日 （7）模擬倫理委員会 なお、授業の順番が前後することがあります（初回お知らせします）。		
教 科 書	資料を配布する		
参 考 書	・ 赤林朗（編著）『入門・医療倫理 I』〔改訂版〕勁草書房 ・ Jonsen, A.R. et al. 著（赤林、蔵田、児玉監訳）『第 5 版臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』新興医学出版 ・ 赤林朗編著 『ケースブック 医療倫理』 医学書院 ・ Dunn, M., Hope, T. 著（児玉聡・赤林朗訳）『医療倫理超入門』岩波書店		
成績評価の方法	平常点（30%）、及び最終レポート（70%）により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	「医療倫理学 II」受講の基礎となる内容である。		

科 目 名	医療倫理学Ⅱ		
タ ー ム	2025 年度 S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 5, 木 6		
担 当 教 員	中澤 栄輔、森 克美、瀧本 禎之		
授 業 の 目 的	公衆衛生倫理と臨床倫理コンサルテーションの 2 つの領域に関して実践的な知識を涵養するために、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授 業 の 方 法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	2025 年 6 月 5 日 （1）公衆衛生倫理入門 2025 年 6 月 12 日 （2）公衆衛生と政治哲学 2025 年 6 月 19 日 （3）親子間の世代間倫理 2025 年 6 月 26 日 （4）健康増進とナッジ／臨床倫理コンサルテーションⅠ 2025 年 7 月 3 日 （5）医療資源配分／臨床倫理コンサルテーションⅡ 2025 年 6 月 10 日 （6）ジェンダーと生命倫理／臨床倫理コンサルテーションⅢ 2025 年 6 月 17 日 （7）研究者の倫理と不正／臨床倫理コンサルテーションⅣ なお、授業の順番は前後することがあります（初回お知らせします）。		
教 科 書	資料を配布する。		
参 考 書	・ 赤林朗（編著）『入門・医療倫理Ⅰ』〔改訂版〕勁草書房 ・ Jonsen, A.R. et al. 著（赤林、蔵田、児玉監訳）『第 5 版臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』新興医学出版 ・ 赤林朗編著 『ケースブック 医療倫理』 医学書院 ・ Dunn, M., Hope, T. 著（児玉聡・赤林朗訳）『医療倫理超入門』岩波書店		
成績評価の方法	平常点（30%）、及び最終レポート点数（70%）により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	医療倫理学Ⅰの内容を前提とする。		

科 目 名	社会と健康 I		
タ ー ム	2025 年度 A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 1, 木 2		
担 当 教 員	橋本 英樹、鎌田 真光		
授 業 の 目 的	本講義は社会的包摂を目指した public health の実践のために必要な基礎理論と現状に関する知見を共有することで、より演習・実践的な議論を予定している A 2 タームの社会と健康 II に参加するために必要な準備をしてもらうことを目的としている。健康や生活機会に格差があることはすでに社会的事実となっている。これを克服するために社会的包摂の重要性や健康の社会的決定要因に対する政策的取り組みなどの必要性も認識されている。にも関わらずそれが現実展開が見られないのはなぜか、それを克服するにはなにが必要かを考察してもらう。		
授 業 の 方 法	講義とディスカッション 対面を原則とする。体調不良等の都合により教室での出席ができない場合に限り、オンラインでの参加を認める。その際は授業前（午前 8 時まで）に鎌田（kamada@m.u-tokyo.ac.jp）に連絡した上で zoom に入室すること。 なお、外部講師担当回などで zoom のみでの開講に変更して実施する場合は、事前に UTOL で通知する。zoom URL は UTOL を参照。 事前配布資料は UTOL を通じて事前配布。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	10 月 2 日 1) Social determinants of health theory of epidemiology（橋本） 2) The role of social marketing in identifying and understanding target population（鎌田） 10 月 9 日 3) Social psychology of social inclusion and exclusion（guest speaker, 高木） 4) Group discussion for final presentation（レポート課題に基づき議論） 10 月 16 日 5) Ageism and the life of older adults（guest speaker, 原田謙） 6) Social welfare and public health（guest speaker, 西岡大輔） 10 月 23 日 7) Discussion 8) Children in the community and policy making in government（(guest speaker, 可知悠子） 10 月 30 日 Preparation for group presentations [Online] ※日本公衆衛生学会 11 月 6 日 9) Health care disparities for non-Japanese residents in Japan（guest speaker, 沢田貴志） 10) Group discussion for final presentations 11 月 13 日 11-12) Students presentation		
教 科 書	社会と健康（東大出版会）		
参 考 書	随時関連参考図書・文献を配布		
成績評価の方法	出席 40%、インクラスディスカッション（質問・意見）参加 20%、レポート課題提出 40%		
他の授業との関連・履修上の注意	事前配布資料は通読してくること。またクラス内でのディスカッション・質問など積極的に参加を推奨する。		

科 目 名	社会と健康 II		
タ ー ム	2025 年度 A 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 3, 金 4		
担 当 教 員	橋本 英樹、鎌田 真光		
授 業 の 目 的	本講義・演習は社会と健康 I で確認した社会的包摂とパブリックヘルスに関わる概念・現状課題の認識を踏まえ、具体的にパブリックヘルス活動を起こすにはなにが必要となるかをディスカッション形式で深めていくことを目指す。		
授 業 の 方 法	毎回講義・講演形式で実践事例などを踏まえた話題提供に続き、small group work による work shop・discussion・presentation を積み上げる。 対面開講を前提とする。 体調不良等の都合により教室での出席ができない場合に限り、オンラインでの参加を認める。その際は授業前（午前 8 時まで）に鎌田（kamada@m.u-tokyo.ac.jp）に連絡した上で zoom に入室すること。Zoom URL は UTOL より確認すること。 なお、外部講師担当回などで zoom のみでの開講に変更		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	11/28 1) イントロ、グループ分け、change agent の概念と public health politics (橋本・鎌田) 2) 地域診断（熊本の事例をベースに）と行政との連携（高木・鎌田） 12/5 3) Entrepreneurship and public health 起業を通じた変革 (guest speaker, 橋本直也) 4) Entrepreneurship and public health 演習 (橋本直也・鎌田) 12/12 5) Lobbying and public health 保健医療政策をめぐる lobbying (guest speaker, 小野崎耕平) 6) Group discussion for final presentation 演習 (橋本・鎌田) 12/19 7) Advocacy and public health 公衆衛生領域におけるアドボカシー活動 (鎌田) 8) Advocacy and public health 演習 with Shilton model (鎌田) 12/26 9) Public-private partnership, implementation, and public health 企業との協働・社会実装 (鎌田) 10) Group discussion for final presentation 演習 2026/1/9 課題研究発表会のため休講 2026/1/16 入試のため休講 この間、各グループごとに final presentation に向けて準備を併行 2026/1/23 11-12) Student presentation and mutual evaluation (橋本・鎌田)		
教 科 書	Naidoo and Willis developing practice for public health and health promotion, 3rd eds. Elsevier		
参 考 書	その他事前に UTOL を通じて適宜配布		
成績評価の方法	出席 40% small group discussion/ inclass discussion(講義時間中の質問含む) 20% student presentation 20% final report 20%		
他の授業との関連・履修上の注意	演習的要素を多く含むので、積極的な議論への参加が求められる。 ※A1 ターム「社会と健康 I」が履修済みであることを必須とする。		

科 目 名	産業保健の理論と実践		
タ ー ム	2025 年度 A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 1, 水 2		
担 当 教 員	黒田 玲子、康永 秀生		
授 業 の 目 的	産業保健について最近の動向と国際的視点についてのアップデートな情報を講義すると同時に、演習を通じて産業保健を職場で遂行するための理論的背景の理解及び実践的技術の基礎を習得することを目的とする。特に、演習では、産業保健の計画と評価、事例分析及び参加型職場改善手法と取り上げており実践的な技術を習得することができる。また、課題を提示し、課題に対する企画立案を行う Project based learning を行い、その結果のプレゼンテーションまでを行うことでプロジェクト遂行のために必要な技術を修得する。本科目においては、産業保健の基礎的な学習を修了していない者も第 1 回の産業保健関連法制度・産業保健総論を受講することで必要な基礎知識を修得することができる。		
授 業 の 方 法	担当教員および外部講師によるその時点におけるトピックスに関する講義 事例検討等による実践的学習 Project Based Learning による演習		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/8 第 1 回 産業保健関連法制度・産業保健総論 (黒田玲子) 第 2 回 産業保健の動向と国際的広がり (小木和孝 労働科学研究所) 10/15 第 3 回 産業保健と健康リスク管理 (立道昌幸 東海大学) 第 4 回 産業保健と環境・社会の相互作用 (仮題) (東敏昭 西日本産業衛生会) 10/22 第 5 回 産業保健と雇用 (矢野栄二 帝京大学) 第 6 回 産業保健のマネジメント (森晃爾 産業医科大学) 10/29 公衆衛生学会期間中につき休講 11/5 第 7 回 演習：産業保健の事例分析Ⅰ 計画と評価 (黒田玲子) 第 8 回 産業保健活動における感染症対策 (柳元伸太郎 東京大学) 11/12 第 9 回 産業保健と倫理 (杉森裕樹 大東文化大学) 第 10 回 演習：産業保健の事例分析Ⅱ 実例検討 (黒田玲子) 11/19 第 11 回 演習：参加型職場環境改善Ⅰ (吉川徹 労働安全衛生総合研究所) 第 12 回 演習：参加型職場環境改善Ⅱ (吉川徹 労働安全衛生総合研究所) 11/26 第 13 回 演習：課題発表Ⅰ (黒田玲子) 第 14 回 演習：課題発表Ⅱ (黒田玲子) ※講義の順番や講師は変更となることがある		
教 科 書	指定しない。		
参 考 書	指定しない		
成績評価の方法	出席(40%)、課題発表及びレポート(60%)		
他の授業との関連・履修上の注意	・履修希望者は 1 回目の講義に必ず出席すること。 ・毎回、講義に用いる資料をあらかじめ UTOL 上に掲載した指定フォルダに掲載するので、各自で講義前にダウンロードすること。事前予習の必要はない。 ・演習や講義中の議論が含まれるため、講義方法は対面とする。体調不良等のやむを得ない理由の場合に限り、所定の手続き(受講者には別途説明)の上で、オンライン参加での出席を認める。ただし、最後の課題発表については、対面のみとする		

科 目 名	保健医療人材育成学		
タ ー ム	2025 年度 S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 1, 火 2		
担 当 教 員	大西 弘高		
授 業 の 目 的	保健医療分野における人材育成とは、地域や国における保健・医療のニーズに対し、医療人材育成やその制度の開発によって、改善するプロセスである。この科目では、学習や教育に関する理論、カリキュラム開発、プログラム評価、インストラクショナル・デザインの考えを理解しつつ、自らコースや授業を組み立て、評価できるような能力を培うことを目的とする。		
授 業 の 方 法	毎回アクティブラーニングを含めた授業を展開する。授業方法は、通常のレクチャーと質疑応答に加え、小グループでのディスカッション等もして考えを深めていただく。 プロジェクト発表は発表1、発表2共に、①学生が他の学生の前でプレゼンテーションしそれを他の学生が評価する、②プロジェクト発表について自身で振り返った後にレポートを提出する、の二つの形で評価する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4月8日 保健医療人材育成とは、グループ学習の技法 4月15日 講義技法、インストラクショナル・デザイン 4月22日 プロジェクト発表1（講義技法の演習） 5月13日 カリキュラム開発：6ステップアプローチを用いて 5月20日 学習者評価、プログラム評価 5月27日 プロジェクト発表2（経験してきた教育の改善案） 6月3日 レポート提出締切		
教 科 書	特になし		
参 考 書	Kern ら「医学教育プログラム開発」、Harden ら「医学教育を学び始める人のために」、は参考になる。		
成績評価の方法	出席（20%）、プロジェクト発表（40%）、振り返りレポート（40%）		
他の授業との関連・履修上の注意	参加希望の方は、メールで oonishihhh@gmail.com までご連絡いただけるとありがたいです。		

科 目 名	プライマリヘルスケア学		
タ ー ム	2025 年度 A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 1, 火 2		
担 当 教 員	大西 弘高		
授 業 の 目 的	プライマリヘルスケアおよびその医療的側面であるプライマリケアを取り上げ、公平性、住民中心、地域リソースとの協働、予防活動重視といった基盤的保健・医療サービス、社会保障制度について学ぶ。		
授 業 の 方 法	毎回テーマに応じた講義とグループディスカッション、課題発表など。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10 月 7 日 プライマリヘルスケアとは：定義、医療と保健、各国の違い 10 月 14 日 プライマリメディカルケア、総合診療/家庭医療の歴史 10 月 21 日 家族志向のケア、地域診断、健康の社会的決定要因 10 月 28 日 日本の健康保険・介護保険と地域包括ケアシステム 11 月 4 日 当人中心性、患者-ケア提供者の関係性 11 月 11 日 プライマリヘルスケアに向けた人材育成のシステム、多職種連携教育 11 月 18 日 プロジェクト発表（自ら選んだ地域のプライマリヘルスケア改善に対するアクションの提案） 11 月 25 日 レポート提出締切		
教 科 書	特になし		
参 考 書	特になし		
成績評価の方法	出席（40%），課題発表（30%），振り返りレポート（30%）		
他の授業との関連・履修上の注意	履修予定の方は事前に oonishihhh@gmail.com にご連絡いただけると幸いです。		

科 目 名	健康医療政策学		
タ ー ム	2025 年度 S 1, S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 2		
担 当 教 員	東 尚弘、稲田 晴彦、竹上 未紗、力武 諒子		
授 業 の 目 的	疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、医療評価など、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方などを外部講師の講義をもとに学習するとともに、実際の事例をとおして理解を深める。		
授 業 の 方 法	講義、ゲストスピーカーによる報告、質疑応答・討論などによる。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	日程：(原則として月曜 2 限 10:25-12:10 だが、月曜 1 限 8:30-10:15 に行う可能性もあり。最終日のみ学生によるプレゼンテーションのため 1・2 限) 回 日にち 時間 講師 トピック 1 4 月 7 日 2 限 10:25-12:10 東 尚弘 健康医療政策学序論・我が国の健康医療提供体制の特徴 2 4 月 14 日 2 限 10:25-12:10 東 尚弘 医療の質の評価とは 3 4 月 21 日 2 限 10:25-12:10 田宮菜奈子 医療と介護のヘルスサービス研究 4 5 月 12 日 2 限 10:25-12:10 福田 敬 医療の経済評価をめぐる政策決定過程 5 5 月 19 日 2 限 10:25-12:10 児玉安司 医療安全を巡る政策 6 5 月 26 日 2 限 10:25-12:10 前村 聡 医療政策決定の過程とメディアの役割 7 6 月 2 日 2 限 10:25-12:10 東 尚弘 医療政策の評価 8 6 月 9 日 2 限 10:25-12:10 岩本あづさ・藤田雅美 在日外国人の健康問題 9 6 月 16 日 2 限 10:25-12:10 杉山雄大・東 尚弘 疾病対策の動き 10 6 月 23 日 2 限 10:25-12:10 林 修一郎 診療報酬の決定過程と課題・厚生労働行政 11 6 月 30 日 2 限 10:25-12:10 稲田晴彦 交通外傷と政策 12・13 7 月 7 日 1～2 限 8：30-12:10 東 尚弘 学生によるプレゼンテーション		
教 科 書	なし		
参 考 書	「国民衛生の動向」(厚生統計協会) 秋吉・伊藤・北山 公共政策学の基礎 有斐閣 2020 Dye TR/ Understanding Public Policy 5th Ed Pearson 2015 A Practical Guide for Policy Analysis 8th Ed Sage Publishing 2023		
成績評価の方法	出席 (50%)、最終プレゼンテーション (50%) に基づいて評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	聴講者、他学部聴講者については初回授業でその旨を責任教員に伝えること。		

科 目 名	法医学・医事法学		
タ ー ム	2025 年度 S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 3		
担 当 教 員	槇野 陽介		
授 業 の 目 的	法医学とは法が適正に執行されるべく医学的な助言を行うための学問である。すなわち、国民の安全や権利を守るための医学といえる。法医学は死因究明のほか、生きている犯罪被害者の鑑定（臨床法医学）も業務として実施しているが、本講義ではそうした法医学の目的や業務を理解することを目的としている。また、特に法医学の中でも公衆衛生に関連する分野として死因究明制度、中毒、大規模災害、虐待などに着目して、オムニバス形式で授業を実施する。		
授 業 の 方 法	座学による講義が主体である。法医学事例を実際に盛り込んだ授業であるため、ZOOMでの講義は基本的には実施しない。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4 月 7 日 (月) 法医学総論 槇野 4 月 14 日 (月) 日本の死因究明制度 岩瀬 4 月 21 日 (月) 世界の死因究明制度の歴史 石原 4 月 28 日 (月) 災害時の法医学的活動 本村 5 月 12 日 (月) 内因性急死 恒矢 5 月 19 日 (月) 嬰兒殺と乳幼児の死亡 鳥光 5 月 26 日 (月) 虐待 - 臨床法医学やこどもの予防できる死を通じて- 齋藤直樹 6 月 2 日 (月) 法医学画像診断学 槇野 6 月 9 日 (月) 法遺伝学 齊藤久子 6 月 16 日 (月) 法歯科学 石井 6 月 23 日 (月) 法中毒学 総論 矢島 6 月 30 日 (月) 法中毒学 各論 永澤 7 月 7 日 (月) 診療関連死とまとめ 槇野 7 月 14 日 (月) 東京都監察医務院への見学 7 月 28 日 (月) 公衆衛生学的危機と法医学 山口 なお一部変更する可能性がある。		
教 科 書	NEW エssenシャル 法医学 第5版 医歯薬出版株式会社		
参 考 書	死体は今日も泣いている 光文社新書 岩瀬博太郎		
成績評価の方法	レポートを課す		
他の授業との関連・履修上の注意	死因究明関連の講義に当たっては医学写真を多用することから、気分の悪くなりそうな方は履修を避けるべきである。		

科 目 名	健康危機管理学		
タ ー ム	2025 年度 A 2	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	火 3, 火 4		
担 当 教 員	東 尚弘、稲田 晴彦、竹上 未紗		
授 業 の 目 的	新興・再興感染症等のアウトブレイクや大規模災害など様々な健康危機の対応に関して、公衆衛生の専門家として知っておくべき事柄や、リスクコミュニケーション、等について学習するとともに、事例を用いて健康危機管理に必要な疫学調査法の基本を習得する。		
授 業 の 方 法	各分野の専門家による講義・ディスカッション		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	日程：2025/12/2 から 2026/1/27 の火曜 3 限 13:00–14:45 または火曜 4 限 14:55–16:40。 ただし 12/30 は除く。 トピック： 1. 序論（東） 2. 地域における健康危機管理（国立保健医療科学院 富尾 淳） 3. 災害医療の体制・対応（防衛省 近藤祐史） 4. 感染症危機管理・Bio Security（慶應義塾大学（国立感染症研究所） 齋藤智也） 5. 放射線危機管理（量子科学技術研究開発機構 富永隆子） 6. 感染症—FETP、アウトブレイク対応（大東文化大学 中島一敏） 7. 化学物質の対応・危機管理（国立病院機構大阪医療センター 大西光雄）		
教 科 書	なし		
参 考 書	「感染症予防必携 第 3 版」（日本公衆衛生協会、2015 年）		
成績評価の方法	出席（50%）及び最終レポート（50%）に基づいて評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	他学部聴講者については初回授業時に責任教員にその旨を伝えること。		

科 目 名	保健行政・健康危機管理学実習		
タ ー ム	2025 年度 夏季	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	集中		
担 当 教 員	東 尚弘、稲田 晴彦、竹上 未紗		
授 業 の 目 的	健康危機管理や保健行政一般に関して、各種資料の収集、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて実習する。		
授 業 の 方 法	保健行政・健康危機管理の現場に身をおき、保健所長などの各種専門職の役割を理解しながら、実習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	実習先（候補は、厚生労働省、国立保健医療科学院、国立健康危機管理研究機構、放射線医学総合研究所、地方自治体）における実習計画に基づいて行う。実習期間は受入先との相談の上決定する。		
教 科 書	なし		
参 考 書	「衛生行政大要 改訂第 24 版」（日本公衆衛生協会、2016 年）		
成績評価の方法	出席(50%)、実習態度(40%)、実習報告書(10%)を目安に評価するが、いずれも必須である（可否で判定）。		
他の授業との関連・履修上の注意	1. 「健康危機管理学」の履修を必須とする。 2. 本実習の対象者は将来、公衆衛生行政に進むことを希望しており、実習先によっては医師である者に限定する。また、受け入れ施設の都合により履修人数は限られる(1~2 名)。 3. 学外での実習となるため、交通費などは学生が負担する。 4. 説明会を行う。日時は決まり次第連絡する。		

科 目 名	環境健康医学		
タ ー ム	2025 年度 A 1, A 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 2		
担 当 教 員	KIM YOONHEE		
授 業 の 目 的	This course introduces students to environmental health perspectives on how environmental factors influence human health at individual and population levels. Students will understand basic concepts and methods to assess environmental exposures and health effects. Studies for specific environmental factors (air pollution, water pollution, weather and climate variability) associated with health will be covered and discussed in the course.		
授 業 の 方 法	Lecture and group discussion		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	October 6. Course introduction Basic principles of environmental health October 13. (National holiday) October 20. Pollution and health: global estimates October 27. Health effect assessment November 3. (National holiday) Environmental exposure assessment November 10. Air pollution and Health (1) November 17. Air pollution and Health (2) (Dr. Whanhee Lee, Pusan National Univ.) November 24. (National holiday) December 1. Air pollution and Health (3) December 8. Heavy metals and health effects (Dr. John S. Ji, Tsinghua Univ.) December 15. Climate and Health (1) December 22. Water, Sanitation and hygiene (WASH) (Prof. Taro Yamauchi, Hokkaido Univ.) December 29. (Winter break) January 5. Climate and Health (2) January 12. (National holiday) January 19. Climate and Health (3) January 26. Group presentations		
教 科 書	Key reference・Dean Baker and Mark J. Nieuwenhuijsen. (2008) Environmental epidemiology: study methods and application. Oxford. ・Some additional research articles will be provided every lecture.		
参 考 書	Supplementary readings ・Ray M. Merrill. (2008) Environmental epidemiology: principles and methods. Jones and Bartlett Learning. ・Paul Wilkinson. (2006) Environmental epidemiology. Open University Press.		
成績評価の方法	30% Attendance and attitude 40% Short reactions (20% x two times) 30% Final term paper		
他の授業との関連・履修上の注意	・All lectures are given in English. ・All assignments should be written/presented in English.		

科 目 名	環境健康医学研究方法論		
タ ー ム	2025 年度 A 1, A 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 3		
担 当 教 員	KIM YOONHEE		
授 業 の 目 的	This course introduces students to the advanced methodologies to investigate the short-term effects of environmental risk factors on human health. It will provide basic concepts, study designs, and statistical regression models using time-series data that have been widely used and intensively developed for the last few decades in the field of environmental epidemiology. Students will be able to interpret time-series data and regression models and acquire skills to apply the methodologies through hands-on practice using R.		
授 業 の 方 法	Lecture, practical and group discussion		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	October 6. Introduction to special study designs in environmental epidemiology / R basics (1) October 13. (National holiday) October 20. R basics (2) October 27. R basics (3) November 3. (National holiday) Descriptive analysis (1) November 10. Descriptive analysis (2) November 17. A standard time-series (TS) regression model November 24. (National holiday) December 1. Practical for the TS regression modelling December 8. Delayed effects and a distributed lag model December 15. Practical for single lag and distributed lag models December 22. A distributed lag nonlinear model (DLNM) December 29. (Winter break) January 5. Practical for DLNM January 12. (National holiday) January 19. Time-stratified case-crossover (TSCCO) design January 26. Practical for the TSCCO analysis		
教 科 書	Key references Roger D. Peng and Francesca Dominici. 2008. Statistical Methods for Environmental Epidemiology with R: A Case Study in Air Pollution and Health. Springer. Roger D. Peng. 2016. R programming for data science. http://leanpub.com/rprogrammin		
参 考 書	Supplementary references Adrian G. Barnett and Annette J. Dobson. 2010. Analysing Seasonal Health Data. Springer. Dean Baker and Mark J. Nieuwenhuijsen. 2008. Environmental epidemiology: study methods and application. Oxford University Press. Lex Comber		

成績評価の方法	15% Attendance & attitude 75% Assignments (15% x 5 times) 10% Presentations (sharing practical session results)
他の授業との関連・履修上の注意	•All lectures are given in English. •All assignments should be written in English. •It is recommended to take this course for a student who has basic statistical knowledge such as p-value and confidence interval.

科 目 名	インターンシップ		
タ ー ム	2025 年度 S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	集中		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	公衆衛生の現場（公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関）などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。なお本コースは公共健康医学専攻修士課程の学生に対してのみオープンとなっている。		
授 業 の 方 法	学生が自らの関心に応じて、あらかじめ用意されたインターンシップ受入先（上記参照）を担当教員に提示した後、担当教員がコーディネーターとなり、学生の意欲や適性と受入先の状況に応じて受入先と調整を行い、派遣先を決定後、実施する。 ＊募集期間 5 月中旬および 1 月下旬		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	8～9 月中の 2～3 週間（募集 5 月中旬）または 3 月中の 2～3 週間（募集 1 月下旬）の期間での実施を原則とする。 インターンシップ実施にあたって、あらかじめ、学生、責任教員及び受け入れ先と綿密に打ち合わせの上、実習計画を立て、それに基づいて実習を行う。 ○受入先一覧 No インターンシップ受入先及びテーマ（予定）（括弧内は担当教員・部署） - NPO メンタルケア協議会（医学部大学院係） ①東京都自殺相談ダイヤル相談記録に基づく相談者傾向の分析等 ②東京都精神科救急医療情報センター相談記録に基づく救急医療利用の傾向変化についての分析等 ③自殺未遂者対応連携支援事業における G・P 連携の効果評価 - 国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報・統計部（松山教授） ①臨床研究現場の見学：臨床試験・研究の立案プロセス等を知り、医療機関で働く生物統計家や臨床試験・研究に関する専門家の役割を学ぶ ②臨床試験データの解析演習 - 国立保健医療科学院 医療技術や医薬品等の費用対効果の評価と活用 - 株式会社 三菱総合研究所（夏季のみ）（医学部大学院係） 保健、医療、介護に関わるプロジェクト分析やコンサルティング業務など - Wellmira（旧リンクアンドコミュニケーション） 健康関連アプリ、生活習慣サポートシステムなどの開発・調査など - 国立成育医療センター 社会医学部門 成育センターで実施中の研究補助など 政策部門 政策資料作成補助など - 身体教育医学研究所 地域における身体活動普及を目指す実践科学に関する実務・研究の補助など - 上記以外に川崎市などの自治体でのインターンシップ（検討中詳細は専攻長まで） 上記以外の機関については、専攻長まで希望を書面で提出し、専攻会議で承認を受けることでインターンシップを行うことができる。実働日数として 10 日以上、かつ内容について審査を行う。		

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価の方法	出席（30%）、実習態度（30%）、インターンシップ報告書（40%）に基づいて評価する。
他の授業との関連・履修上の注意	インターンシップ参加決定後の問題点等は、指導教員（研究室配属されていない場合には専攻長）と相談の上、窓口教員あるいは大学院係まで インターンシップ先での事故等に関する責任・保険の必要有無、インターンシップ先との守秘義務契約など事前に相談が必要となるものについては指導教員および専攻長に早めに連絡を 1年コース履修者が冬季インターンを希望する場合、単位習得のための評価が卒業判定の時期と重なりぎりぎりになるので、事前に専攻長・大学院係に相談のこと

科 目 名	公共健康医学特論		
タ ー ム	2025 年度 S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 4, 月 5		
担 当 教 員	康永 秀生、稲田 晴彦		
授 業 の 目 的	public health の歴史、意義、社会的要請を理解し、public health の実践者・研究者として求められる規範・視野・資質 (competency) を自ら育んでいく基本的姿勢を講義・討論を通じて修得する。またキャリアイメージを持ってもらうために 2 年生の学生諸君や同窓会諸氏との意見交換を含む。さらに各研究分野のイメージをもってもらうためにオムニバスで分野紹介も行う。		
授 業 の 方 法	・各分野の教員と外部講師による講義を行う ・テーマごとに資料が配布される		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 4/7 14:55-16:40 public health の歴史、MPH に何が求められるか (康永) 2) 4/7 16:50-18:35 「新しい保健所」を見る (橋本) 3) 4/14 14:55-16:40 public health の実践と理論 (佐々木名誉教授) 4) 4/14 16:50-18:35 パブリックヘルスコンピテンシーとは (橋本ほか) 5) 4/21 14:55-16:40 public health と政治倫理 (中澤) 6) 4/21 16:50-18:35 データベースとパブリックヘルス (松居) 7) 4/28 14:55-16:40 コミュニケーションとパブリックヘルス (奥原) 8) 4/28 16:50-18:35 M2 の諸君との意見交換 9) 5/12 14:55-16:40 young faculty から見たパブリックヘルスのキャリア (篠崎) 10) 5/12 16:50-18:35 2024 年度インターンシップ参加学生の報告 11) 5/19 14:55-16:40 パブリックヘルスのキャリア同窓会の活動から (牧) 12) 5/19 16:50-18:35 総合ディスカッション (faculty 有志) 13) 5/26 14:55-16:40 各分野の紹介 (30 分ずつ) TBA 14) 5/26 16:50-18:35 各分野の紹介 (30 分ずつ) TBA 15) 5/29 予備日		
教 科 書	講義毎に異なるので適宜指示する。		
参 考 書	講義毎に異なるので適宜指示する。		
成績評価の方法	各回の出席と発言 (50%)・レポート (50%) を総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	他の授業のすべてと関連を有する。		

科 目 名	課題研究		
タ ー ム	2025 年度 S 1	単 位 数	6
曜日・授業時間帯	集中		
担 当 教 員	各教員		
授 業 の 目 的	公衆衛生学の諸領域における高度な問題解決能力を身に付ける。		
授 業 の 方 法	特定の研究課題について、現地調査（フィールドワーク）、資料収集、分析・統計解析、論文作成などを指導教員の指導のもとで行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	4 月～12 月 課題研究 2026 年 1 月 9 日（金）全日 課題研究発表会		
教 科 書	特になし		
参 考 書	特になし		
成績評価の方法	出席状況（50%）及び課題研究の成果（課題研究論文）（50%）で評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	出席状況（50%）及び課題研究の成果（課題研究論文）（50%）を発表会にて評価する。		

6. 公共政策大学院との合併科目について

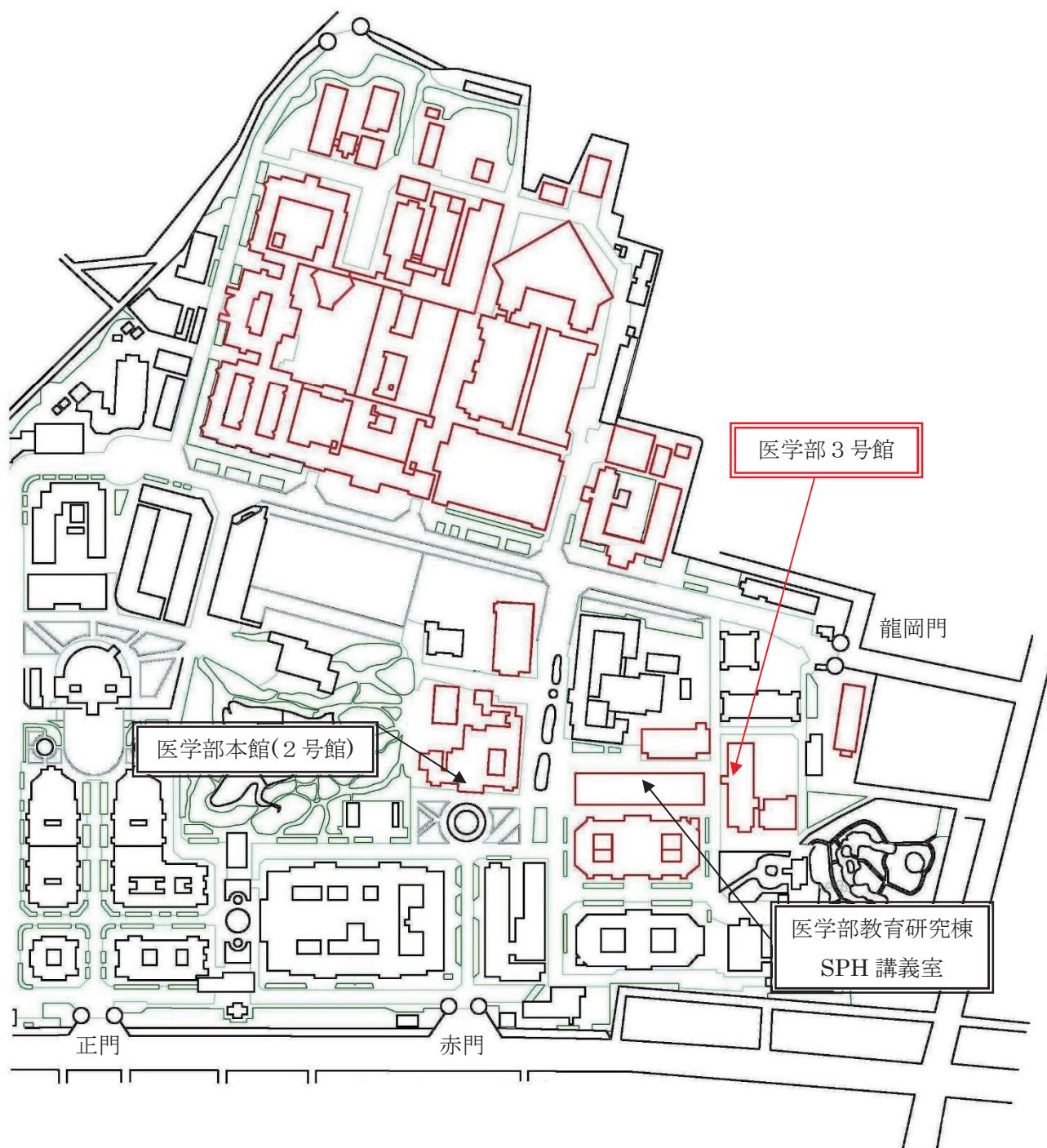
科目番号	科目名（担当）	単位	ターム	曜日	時限	開講場所
41518326	社会保障政策 （政策の理論の展開） （鈴木）	2	A1・A2	金	5	国際学術総合研究棟 4 階 SMBC ホール ※変更の可能性があるため UTAS でも確認のこと。

科 目 名	社会保障政策（政策の理論と展開）		
タ ー ム	2025 年度 A 1, A 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 5		
担 当 教 員	鈴木 俊彦		
授 業 の 目 的	1. 状況認識・課題認識 社会経済、国民生活の中で、社会保障は、現在及び将来にわたり非常に大きな比重を占め、現代行政における社会保障行政の重要性はますます増大している。一方、人口減少・少子高齢化、社会経済の構造変化など、社会保障を取り巻く環境・状況は大きく変貌しつつある。その中で社会保障に関して、どのような政策を展開し、どのような保障の形を選択していくかは、「国のかたち」にも関わる重要な問題である。 2. 狙いと目標 こうした状況認識・課題認識に立ち、長年にわたり社会保障政策の責任者として立案・実施に当たってきた経験を踏まえ、我が国の社会保障の現状と課題、社会保障に関する今後の改革の方向性等について解説し、社会保障政策の在り方を考える上での基本的枠組みと視点を提供する。講義の中では、現役の事務次官、局長クラスの政策責任者など関係者との対話を通じて、政策の構築と展開のダイナミズムを共有するとともに、政策を取り巻く最新の状況を把握し、理解と考察を深める。 3. 具体的な構成 ① 総論として、人口構造の変化、社会経済の変化、国民生活の変化、国際比較等を明らかにしつつ、社会保障政策がどのように構築されてきたか、我が国の社会保障の現状と課題等を概観する。 ② 各論として、医療、介護、年金、人口減少対策等を中心に、社会保障の主要分野の現状と課題、今後の政策の方向性等について、政策責任者等の説明を聞くとともに、意見交換を行う。 ③ 以上を踏まえ、社会保障政策の今後の方向性に関する論点について掘り下げて分析し、総括として今後の社会保障と我が国社会の在り方について考察する。		
授 業 の 方 法	対面授業（国際学術総合研究棟 4 階 SMBC ホール）を基本とする。 （なお、やむを得ない事情により教室での講義に参加できない者のために、オンラインでの同時配信を併せて行うハイブリット方式も検討中。） 講義形式を主としつつ、双方向的授業の要素を取り入れる。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	概ね以下のとおり予定する。 1. 序論 ―この授業で目指すこと 2. 総論 社会保障政策の歴史と理論 我が国の社会保障の全体像とこれを取り巻く諸状況、課題の概観 （論点として、人口構造、社会経済状況、地域、社会保障給付費、財政、国際比較等） 3. 各論 主要分野の政策・制度の現状と課題 ※ 各分野の現役行政官（本省事務次官・局長クラス）の参加・解説を通じ、政策の構築と展開のダイナミズムを共有する。 (1) 医療（医療提供体制、医療保険等） (2) 介護（介護保険等） (3) 年金（公的年金制度、私的年金等） (4) 次世代育成支援（人口減少対策、子ども・子育て支援等） (5) 生活保護・生活困窮者自立支援 等		

	4.総括 今後の社会保障政策の展開方向を考える視点 2. で概観した課題について、3. で深めた理解を踏まえ、掘り下げた分析、考察を行う。 (2040 年を展望した社会保障改革、今後の社会をどう考えるか 等) 5.まとめ
教科書	社会保障の理論と歴史、論点について「平成 24 年版厚生労働白書（第 1 部 社会保障を考える）」に、社会保障の近年の状況と動向については「令和 2 年版厚生労働白書（第 1 部 令和時代の社会保障と働き方を考える）」に、それぞれ概説されており、これらを参照すること。 いずれも、以下からダウンロード可能である。 https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/index.html
参考書	その他の参考書については、各回の講義において、適宜紹介する。
成績評価の方法	レポート（80%）、授業参加状況（20%）
他の授業との関連・履修上の注意	毎回、講義に用いる資料をあらかじめ ITC・LMS 上に掲載するので、各自ダウンロードの上、事前に目を通した上で授業等に臨むこと。

7. 国際保健学専攻との合併科目について

	科目番号	科目名 (担当)	単位	ターム	曜日	時限	場所
P. 53-54	41522111	国際保健政策学特論Ⅰ (橋爪)	2	S1・S2	火	3	医学部3号館
P. 55-56	41522112	国際保健政策学特論Ⅱ (橋爪)	2	A1・A2	火	3	N507



科 目 名	国際保健政策学特論 I		
タ ー ム	2025 年度 S 1, S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 3		
担 当 教 員	橋爪 真弘、CHRIS NG FOOK SHENG		
授 業 の 目 的	本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題の論点および理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、グローバルヘルスの政策とガバナンス、地球環境問題と健康、疾病負荷、健康格差、健康の社会的決定要因等である。 This course introduces the principles and theories of major global health challenges; discusses key issues in improving global population health; as well as practical applications of quantitative methods to analyze and interpret these issues and challenges for policy. Topics will include global health policy and governance; global burden of diseases; global environmental change; environmental health; health equity; infectious disease surveillance; non-communicable diseases and prevention; maternal and child health; health risk assessment; etc.		
授 業 の 方 法	受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。 Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive; consisting of lectures; exercises and case discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze; interpret and propose solution to the current global health topics.		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4 月 8 日から 7 月 29 日まで (UTOL のお知らせを確認してください) From April 8th to July 29th (refer to announcements on UTOL) 講義スケジュール (予定) Course schedule (tentative; the order may change): Lecture Topic: 1. Global environmental change and health 2. Overview of global burden of disease 3. Maternal and child health 4. Seasonality assessment in epidemiology 5. Temperature and mortality 6. Climate change mitigation policy 7. Equity in health and universal health coverage assessment 8. Sustainable development goals: global policy and health agenda 9. Health impact assessments in environmental health 10. Evidence synthesis for global health research 11. Air pollution and health		

	12. Health effects of dust and haze exposure 13. Revision and Assessment
教科書	課題図書は UTOL で各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs will be distributed via UTOL one week before each lecture.
参考書	課題図書は UTOL で各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs will be distributed via UTOL one week before each lecture.
成績評価の方法	宿題(60%)、授業への参加(40%) Problem sets (60%), class participation (40%)
他の授業との関連・履修上の注意	受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。 Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive, consisting of lectures, exercises and case discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze, interpret and propose solution to the current global health topics.

科 目 名	国際保健政策学特論 II		
タ ー ム	2025 年度 A 1, A 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 3		
担 当 教 員	橋爪 真弘、CHRIS NG FOOK SHENG		
授 業 の 目 的	本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題の論点および理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、グローバルヘルスの政策とガバナンス、地球環境問題と健康、疾病負荷、健康格差、健康の社会的決定要因等である。 This course introduces the principles and theories of major global health challenges; discusses key issues in improving global population health; as well as practical applications of quantitative methods to analyze and interpret these issues and challenges for policy. Topics will include global health policy and governance; global burden of diseases; global environmental change; environmental health; health equity; infectious disease surveillance; non-communicable diseases and prevention; maternal and child health; health risk assessment; etc.		
授 業 の 方 法	受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。 Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive; consisting of lectures; exercises and case discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze; interpret and propose solution to the current global health topics.		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10 月 7 日から 1 月 27 日まで (UTOL のお知らせを確認してください) From October 7th to January 27th (refer to announcements on UTOL) 講義スケジュール (予定) Course schedule (tentative; the order may change): Lecture Topic: 1. Planetary health 2. Global mental health 3. Approaches to assessing health risks of smoke haze in the tropics 4. Comparative risk assessment 5. Japan's Global Health Diplomacy 6. Projections of climate change-related health impacts 7. Cancer epidemiology and prevention 8. Environment and child health 9. Social determinants of health 10. Nutrition and health 11. Infectious disease surveillance system		

	12. Global perspectives for disease control and the future 13. Revision and Assessment
教科書	課題図書は UTOL で各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs will be distributed via UTOL one week before each lecture.
参考書	課題図書は UTOL で各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs will be distributed via UTOL one week before each lecture.
成績評価の方法	宿題(60%)、授業への参加(40%) Problem sets (60%), class participation (40%)
他の授業との関連・履修上の注意	受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。 Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive, consisting of lectures, exercises and case discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze, interpret and propose solution to the current global health topics.

公共健康医学専攻成績評価規則

公共健康医学専攻会議

制定 平19. 4. 1

改正 平26. 7. 23

改正 令 4. 11. 16

(成績の区分)

第1条 学生の成績は、A+, A, B, C, Fの5段階とし、C以上を合格とする。ただし、特別の理由があるときは合格・不合格の2段階評価とすることができる。

(成績区分の標準)

第2条 A+, A, B, C, Fの基準は、下記の通りとする。

A+ 90点以上

A 80点以上

B 70点以上

C 60点以上

F 不合格(60点未満)

(成績評価)

第3条 成績は、筆記試験及び平常点によって評価する。ただし、実習科目並びに相当の理由がある演習科目、受講生の少ない科目等では、レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。

2 各教員は、成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき、学生が履修する前に公表しておくものとする。

3 教員による採点は、原則として素点によって行う。ただし、学生には素点ではなく、5段階評価で通知する。

(成績に関する説明)

第4条 学生は、自己の成績について、明らかにそれが誤りであると思われる場合のみ、所定の様式を大学院担当へ提出し、成績評価の確認を申請することができる。ただし、その申請期間は、成績発表日から1か月以内とし、期間経過後の申請は不可とする。

(筆記試験の実施)

第5条 筆記試験実施の細目は、別に定める。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年11月16日から施行する。